

草加市教育委員会会議録

平成 3 0 年第 3 回臨時会

平成 3 0 年草加市教育委員会第 3 回臨時会

平成 3 0 年 8 月 6 日 (月) 午前 9 時 3 0 分から

草加市文化会館 第 1 ・ 2 研修室

○ 議 題

第 4 4 号議案 平成 3 1 年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について

○ 出席者

教 育 長	高 木 宏 幸
教育長職務代理者	村 田 悦 一
委 員	井 出 健 治 郎
委 員	小 澤 尚 久
委 員	加 藤 由 美
委 員	宇 田 川 久 美 子

○ 説明員

教育総務部長	今 井 規 雄
教育総務部副部長	本 間 錦 一
教育総務部副部長	青 木 裕
教育総務部副部長	野 川 雄 一
総務企画課長	伊 藤 寿 夫
指 導 課 長	河 野 健
教科用図書選定資料作成委員会委員長	
教科用図書選定資料作成委員会副委員長	
教科用図書選定資料作成委員会各委員	

○ 事務局

名 倉 毅

山 岸 亮

○傍聴人 20人

午前 9 時 3 0 分 開会

開会の宣言

- 高木宏幸教育長 ただ今から、平成 3 0 年教育委員会第 3 回臨時会を開催いたします。

前回会議録の承認

- 高木宏幸教育長 事務局から前回会議録の朗読をお願いいたします。

———— 前回会議録の朗読 ————

- 高木宏幸教育長 ただ今、事務局から前回会議録の朗読がありましたが、これにつきましてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(「ありません」と言う者あり)

- 高木宏幸教育長 よろしければ、承認することとし、会議録への署名を行いたいと思います。

教育長・委員の署名

- 高木宏幸教育長 以上で、前回会議録の承認を終了します。

議案審議

- 高木宏幸教育長 ただ今から、審議に入らせていただきます。本日の案件は、議案が 1 件となっております。

なお、本日お配りしております「平成 3 0 年教育委員会第 3 回臨時会説明委員名簿」のとおり、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明員として出席させておりますので、ご了承願います。

また、委員さんの中で議題以外の教育全般に係るご質疑、ご意見等がございましたら、委員会終了後に意見交換の時間を設けておりますので、よろしくお願いいたします。

第 4 4 号議案 平成 3 1 年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について

- 高木宏幸教育長 それでは、第 4 4 号議案につきまして、指導課長より説明させます。
- 説明員 平成 3 1 年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について、ご説明申し上げます。

提案理由でございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 2 1 条第 6 号の規定

により、市立小中学校において使用する教科用図書を、平成３１年度使用小学校用教科用図書及び中学校用教科用図書採択に係る発行者一覧から採択する必要が生じたため、審議をお願いする次第でございます。

なお、教育長及び教育委員の皆様には、今回の採択に当たりまして、平成３１年度使用対象教科用図書の出版会社と何ら関係がないということを、誓約書にご署名いただいていることをお伝えいたします。

それでは、これまでの経緯等について、その概略をご説明申し上げます。

草加市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第５条に基づき、教科用図書選定資料作成委員会は、教科用図書調査研究専門部会及び学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケートを参考に協議及び検討を行いました。

平成３０年度教科書展示会につきましては、草加市立中央図書館で６月１５日から６月３０日までの１４日間開催させていただきました。保護者一般１１９人、学校関係者６４４人、教育委員会等関係者４人、計９７３人の方が閲覧くださいました。

この後、教科用図書選定資料作成委員会委員から各種目についてご説明させていただきます。調査の観点、調査研究資料、調査研究報告書をご準備ください。

まずは、草加市の児童生徒の実態について説明した後、草加市の児童生徒の実態を踏まえての観点についてご説明いたします。その後、各発行者の特色、特徴について、目録の発行者順にご説明いたします。説明の際には、各発行者の報告する特色や特徴がよく表れている学年を選びまして、教科書をお見せしながらご説明いたします。

サポートには担当の指導主事及び指導員が入ります。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今説明が終わりました。ここで、第４４号議案の進め方につきまして、委員の皆様にお諮りしたいと思います。

まず、各種目の担当委員から選定資料について報告をいたします。

その後、その報告に対する質疑及び協議を行い、採択を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と言う者あり）

○高木宏幸教育長　それでは、小学校音楽の選定資料の報告に入らせていただきます。説明員の方、お願いいたします。

小学校 音楽

○説明員 それでは、音楽科についてご説明いたします。

資料は、調査の観点、調査研究資料、調査研究報告書をご準備ください。

まず、草加市の児童の実態でございますが、音楽好きな児童が多く、特に、歌唱、器楽の表現分野に優れております。学習指導要領改訂の柱であります共通事項を架け橋として、思考力や判断力も育ってきています。これらは埼玉県音楽会、市内音楽会や授業研究会を通して分かる実態でございます。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、音楽科においては、一つ目に「教材の選択」、二つ目に「表現と鑑賞の活動の関連」、三つ目に「主体的な学習習慣の確立」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第1学年のものを例にとってご説明させていただきます。

初めに、教育出版社につきましては、教科書の36ページをご覧ください。上に「どれみふぁそのおとであそぼう」と学習のねらいが児童へ呼びかける形で示されています。また、37ページの左下の吹き出しでは、「せんりつ」の下に緑の葉っぱとアンダーラインによって、取り上げる共通事項が分かるような工夫が見られます。

次に、48ページをご覧ください。透明シートで視覚的に曲のもつスケール感をイメージしやすいような工夫がなされております。また、1年生から6年生の教科書全てに透明シートや見開きページを使用するなど、発達段階に応じて視覚的にイメージしやすいという特徴があります。

次に、教育芸術社につきましては、教科書の34ページをご覧ください。上に児童に呼びかける形で示された学習のねらいが「どれみふぁそのいちをおぼえて」と、より明確な表現になっています。そして、そのための活動の手順が児童にとって分かりやすく具体的に示され、より主体的に学習が進められるような工夫が見られます。

次に、64ページから65ページをご覧ください。「うたいつごうにほんのうた」として、お正月など世代を超えて親しめる教材が数多く掲載されております。また、1年生から6年生の教科書全てに「歌いつごう日本の歌」として、発達段階に応じて日本の歌が多く掲載されているという特徴があります。

最後に、これまでの使用実績については、新しく習う曲のどこに気を付けて聴くことが必

要か図で示されており、児童が音楽の要素である旋律に気付きやすく、音程や音色、旋律やリズムの特徴を言葉にできるようになっています。提供されている楽曲に対して、情景が思い浮かびやすくなるように図や絵で工夫されており、自分たちの思いを表現しやすいようになっています。音符や休符については、児童が親しみをもって取り組めるよう身近な言葉や図を用いて表現が工夫されており、音楽の要素について苦手意識なく取り組むことができます。

このように学習のねらいに沿って系統性を意識させながら、発達段階に応じて積み重ねて学習することができ、児童一人ひとりの音楽性の向上につながっていると考えます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○村田悦一教育長職務代理者　草加市の児童の実態を踏まえた観点の1番目に、「教材の選択」ということがあり、先ほどの説明の中で、日本の歌の説明がありました。いわゆる文部省唱歌という、我々のような経験を重ねてきた者には懐かしく思うところですが、実際には、今の子どもとのギャップがあるかもしれません。教材の選択の中で、私は個人的には、伝統や古き良きもの、文部省唱歌等はなるべく残して語り継いでいきたい、歌い継ぎたいという気持ちがあります。このことについて、2者の中で、何か特徴的に出ている、あるいは一般的にどのような形で扱われているのか、それについてご説明をいただければと思います。

○説明員　日本伝統の唱歌と言われているものに関しては、子どもたちが身近に感じている日本の音階といったものが、既に体に根付いているということで、どちらの教科書もその根付いた中で、発達段階に応じて、日本の親しみやすいメロディー、唱歌を勉強するような教科書の流れになっていると考えております。

○村田悦一教育長職務代理者　それでは、二者の中ではあまり差がないということで理解してよろしいですか。

○説明員　はい。

○宇田川久美子委員　国歌について、教育芸術社は最後のページにあって、教育出版は中ほどに載っていますが、学校ではどのように扱われることになるのでしょうか。

○説明員　学校では、必ず1年生から6年生まで、教科書のページ数は違いますが、歌詞とメロディーが音符を伴って明記されています。学校では行事も含めて歌うことになりますので、授業を通して歌っていると考えております。

- 宇田川久美子委員 習う時期などに決まりはないのですか。
- 説明員 1年生から教科書に載っており、また、様々な場面で耳にしているととても親しみやすいメロディーでありますので、1年生から授業で扱っております。
- 小澤尚久委員 5年生の教科書で、教育出版では「しの笛にチャレンジしよう」とありまして、教育芸術社では「琴に親しもう」とありますが、実際に子どもたちがそのものを手にしたり触れたりすることはあるのでしょうか。
- 説明員 和楽器に関しては、子どもたちに触れさせるということで、学校の実態に応じて、琴など様々な和楽器がありますが、これを自ら手にして音を出すというねらいがありますので、行っています。
- 高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。
それでは、次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 国語・書写

- 高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。
- 説明員 国語科の教科書について説明させていただきます。

草加市の児童の実態でございますが、根拠や理由を明らかにし、事実と意見の区別をはっきりさせ、明確に結論付けて、書く力・話す力・聞く力の向上を図る必要があります。また、より確かな学力の定着を目指して、目的や意図に応じて相手に伝わりやすいように自分の考えをまとめる力の育成が必要です。

そこで、草加市の児童の実態を踏まえた調査研究の観点として、学力の三要素に加えて、草加市として全ての教育活動を通して向上させたい「道徳性の育成」と「言語活動の充実」を挙げました。

次に、五つの発行者から出されている教科書の特色、特徴につきまして、4年生の教科書を例にとり、ご説明申し上げます。

東京書籍は、上巻42ページにあるような、「話す・聞く」の単元を年間四つ配置して、低学年から高学年まで発達に応じて力を伸ばすことを目指しています。

次に、「書く」活動といたしましては、物語や詩の創作活動を取り入れ、さらには、112ページのような自分の考えを文章にするときの組み立てメモを使うなどしています。また、学びと交流については、吹き出しや挿絵を活用してイメージ化を図っています。

各学年の上巻、冒頭では、目次の後に「国語の学習を進めよう」を設け、つかむ、取り組

む、ふり返る、広げるというような学習者が主体的に学ぶためのヒントになる学習の進め方も示しています。

次に、学校図書は、上巻 55 ページや 119 ページにあるような「話をする全体像」が分かる図や表を提示することによって、話す構成のイメージ化を図れるようにしています。書くことの単元では、教科書の下段に、この学習活動と関連した事柄を、以前何ページで学習したのかを示し、学習を進めるときの手がかりになるようにしています。

また、学びの交流態度を年度当初から育成するため、上巻の冒頭に「学級づくり」のページを設け、学習の中で自然と意見の交流ができるように話し方のポイントを示しています。

主体的に学習を進めるための支援としては、各単元の冒頭、例えば 54 ページの右下にあるとおり、学習の流れを図示して、学習者が見通しをもって取り組むことができるようにしています。

次に、三省堂は、2 年生から上下巻まとめて 1 冊になっており、伝え合う力の育成を目指して、話し合い、説明、報告など、生活の中でいきる「話す・聞く」の単元を組み合わせ構成しています。

58 ページのように詩を書く単元でも、目的がはっきりした文章が自分の言葉で書けるように手順を示しております。さらに、別冊「学びを広げる」を用いて、12 ページにございますように、感覚を表す言葉を集め、詩を書くときの語彙の豊かさを補おうと努めています。

また、各学年上巻の冒頭には、見通しをもって学習を進めるための課題の仲間分けが示されており、学習者が主体的に学習を進められるようにしています。

次に、教育出版は、98 ページ「話す・聞く」活動を通して、伝え合う力を高めるため、インタビューや学級会などを学年の前半に取り入れており、普段の生活にいかせる学習形態で授業ができるように工夫しています。

また、言語事項を学習する教材として、95 ページにあるような「ここが大事」という欄を設け、単元で学んだことをより印象付けるようにしています。さらに、挨拶から対話、常体・敬体表現、グループ内発表から学級での発表へとスモールステップで交流するための基礎が身に付くように段階を追っています。物語文、読書、新聞記事、身の回りの事象、自然、言葉、グループ活動、リーフレッツ作成、インタビューなど多彩な教材を配置し、児童の主体的な学習につなげられるよう配慮しています。

光村図書出版は、「話す・聞く」の基礎・基本的な力を身に付けるために、説明、報告、紹介、感想、討論など具体的な言語活動を取り入れていきます。

8 ページをご覧ください。言葉の準備運動「ばらばら言葉を聞き取ろう」では、ゲーム的な要素を含みながら、聞き手の聞き取り方や話し手のしゃべり方など、音声言語の学習を楽しめるように工夫しています。「書くこと」では、下巻 95 ページにあるように、上手に書くポイントが分かりやすく示されています。これらの単元を活用し、感じる、考える、想像するための語彙を増やす単元配列にしています。また、上巻 6 ページにこれまで学習してきたポイントがまとめて掲載されているため、情報や考え方の交流場面で気を付けることができ、さらに、見通しをもって主体的に学べるように、単元末では身に付けたい力として、「たいせつ」、「ふりかえろう」を示して強調しています。

平成 27 年度からの使用実績といたしましては、これまで研究してきた手づくり教材や資料を活用できるので、授業中のパフォーマンス効果が高い、挿絵やイラスト、写真等のバランスが良く、言語の学習の妨げにならないので学びやすいなどの声が寄せられました。

続きまして、書写の教科書について説明させていただきます。

まず、児童の実態でございますが、各小学校では書く姿勢や筆記具の持ち方に留意して、正しい文字の形や筆順等に気を付けながら、丁寧で美しい文字を書けるように指導しております。市内硬筆展や書き初め展など競い合う場を設けての意欲向上や、日常生活の中でのノート指導等、学校ごとにも工夫を凝らしていることがうかがえます。今後、実用的な文章を意識して書く活動の際に、正確で美しい文字や正しい書き方によって適切に表現し、情報を伝えられるようにする必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、各領域や各教科との関わりにおいて、「豊かな心の育成」や「国語の授業との関連」について挙げさせていただきます。

各発行者の特色、特徴等について説明させていただきます。

まず、東京書籍は、他の教科書と比べ 2.7 センチ幅が広く作られ、そこには現在進めている学習と関連するページ数などの情報が記されております。目次をご覧ください。まとめを含めた八つの教材で構成されており、基礎的・基本的な指導事項を積み上げ、議論の習得や定着を図れるようにしています。また、書写で学習したことを生活にいかし、表現力を高められるよう、「ノートに書こう」や「書きぞめをしよう」「年賀状を書こう」などの学習も設けています。

次に、12 ページをご覧ください。イルカのマークで示している 3 段階の学習の手引き、「調べよう」「たしかめよう」「広げよう」を設け、学習の流れを明示するとともに、学習者が主体的に学習することができるように工夫しています。

次に、学校図書についてですが、目次をご覧ください。硬筆で「えんぴつはかせ」、毛筆で「ふではかせ」を登場させ、キャラクターを用いて書写における基本的技能や用語の解説、大切なポイントを楽しく学べるよう工夫しています。

また、7ページをお開きください。毛筆の筆使いをイメージしながら硬筆の学習ができるようになぞり書きの枠を用い、字形の理解に役立つように手本のすぐ近くに自分で試し書きできるスペースを確保しています。さらに、ページの左下にはカエルのマークで示した「学習をふり返ろう」の自己評価欄を設け、低学年では評価用に「できたかなシール」を張らせて、自ら進んで反省しようとする主体的な態度も促しています。

次に、三省堂についてですが、目次の反対にある折り込みページをご覧ください。毛筆に関わる道具の解説を丁寧に行い、文字を書く以前の道具の学習から導入することで、書写に対する学習者の興味・関心を高めています。

6ページを開いていただきますと、筆で書くときの力の入れ方や、腕の動かし方や穂先の向きについてイラストで表現しており、イメージしやすいよう工夫しています。また、毛筆の特性をいかして硬筆でも書いてみるという学習過程を繰り返し行うことができるよう、課題ごとのページを見開きで、左に手本、右に硬筆と、同じパターンにしています。各教材の最後には自己評価の観点を示し、主体的な学習への意欲付けもしています。

次に教育出版についてですが、目次の反対にある折り込みページをご覧ください。ここにいろいろな書き方の工夫や、学年によっては、文字の世界や文字の歴史などを示し、生活と書写の知識や技術を結び付けることで、書くことの基礎・基本の習得に対する意欲の向上を図っています。また、「考えよう」「ここが大切」「生かそう」、このようなマークを使って分かりやすく提示し、目当てをはっきりもたせた上で表現力を高められるようにしています。

次に、10ページをご覧ください。ここに学習の進め方をまとめて紹介することで、以後の学習をより主体的に活動できるように工夫しています。

次に、光村図書出版です。18ページをご覧ください。下のほうに枠組みで「たいせつ」と表記し、字形、文字の大きさや配列など、基礎的・基本的な内容を発達段階に即して理解できるよう図を交えて示しています。また、目次のページでは、生活の中で書写の学習はどのようにいかされるのかを教室のイラストを使って考えさせ、文字表現への関心・意欲を高めています。さらに、自己評価欄「ふり返ろう」、これは2年生以上です。「できたかな」こちらは1年生ですが、これを設け、3年生以上の最終単元では、既習事項を基に自ら課題を発見し、主体的に解決する活動を設定しています。

平成27年度からの使用実績といたしましては、毛筆における始筆と終筆が示されていて分かりやすく、力を入れる強さや筆使いを視覚的に見ることができて便利であることなど、学習者側からの成果と国語の教科書の学習進度と並行して進めることができ、指導しやすかったなど教える側からの成果が寄せられています。

次に、日本文教出版についてです。10ページをご覧ください。4年生から6年生では単元ごとに「ここがポイント」欄があり、学習前に何を意識して取り組めばよいか、基礎的・基本的なめあての確かめができるようになっています。また、学習のめあてに沿った表現力のポイントをパンダのキャラクターを用いた吹き出しで示し強調しています。

36ページをお開きください。「かんがえる」「たしかめる」「いかす」の3段階の学習コーナーを設置し、学習者へ疑問を投げかける構成によって主体的な学習になるよう促しています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思いますが、まずは国語についてのご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 草加の子どもたちの言語活動ということを先ほどあげられたと思いますが、こちらの能力を育成するための手立てとして、特に草加の子どもたちに有効であるというものを、いくつかでよいので挙げていただいて、その中でも、比較、検討して特に良いと思ったものをもう少し詳しく教えていただければと思います。

○説明員 国語を適切に表現する能力、伝え合う力を育成する手立てとして、草加の子どもたちに教科書を絡めて有効だった点をお答え申し上げます。

国語科を適切に表現する能力、伝え合う能力ということで、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように話す活動、実用的な文書を書く活動、交流を通して自分の考えを広げたり、深めたりするという活動が草加の子どもたちに特に有効な活動であると実態をつかんでおります。

そこで、各発行者の教科書を見てみますと、光村図書では4年生の上巻において、6ページに「いつも気をつけよう」という単元を設け、話すときは話題をはっきりさせて話す。話す速さや間の取り方などを工夫する。書くときは相手と目的をはっきりさせる。「です・ます」と「だ・である」などが交ざらないようにするなど、伝え方を具体的に記載しているというところでございます。これにより学習に臨む際に、原則をしっかりと踏まえた上で学習に取り組むことができ、国語を適切に表現し、伝え合う能力の向上に役立つように考えられてい

ます。また、「よりよい話し合いをしよう」では、グループで話し合うときに気を付けることを箇条書きにして、活発に交流させるための工夫が易しく述べられています。これにより草加市の小学生の課題である「話す・聞く」力の育成に資するものと期待できます。

東京書籍につきましては、光村図書の「いつも気をつけよう」のような全ての領域を網羅する具体的な伝え方を確認するための単元はありませんが、書く領域の「心の動きを伝えよう」では二つの文章を読み比べて、より優れた文章表現を選び、自分で書いてみるという単元がございます。国語を適切に表現する能力の向上につながることを期待できます。

学校図書では、光村図書の「いつも気をつけよう」のような全ての領域を網羅するような具体的な伝え方を確認するための欄はありませんが、冒頭に「遊びの教えっこ」という絵に描かれている遊びの中から知っているものを選び、相手に説明するという学級づくりのための単元がございます。楽しみながら伝え合う力の育成が期待できます。

三省堂についても、光村図書の「いつも気をつけよう」のような全ての単元を網羅する具体的な伝え方を確認するという単元はありませんが、「こんなことはありませんか」の単元で、身の周りで起こったことを基に、自分の体験を不特定多数に伝える活動があり、生活の中で役立つ能力を身に付けることができます。「学びを広げる」という別冊において、「グループで話すときには」の単元で、具体的な話し合いの場面を記して、意見と一緒に理由を言おうなど注意できる点を明確にしています。これによって話し合いの場面でルールを分かりやすく学ぶことができます。

教育出版についても、同じく光村図書の「いつも気をつけよう」のような具体的な伝え方を確認する単元はありませんが、「クラスで話し合おう」において具体的な話し合いの場面を記し、司会者として注意する点を明確にしています。これにより話し合いの場面でルールを学ぶことができます。

○宇田川久美子委員 他の教科もそうだと思うのですが、国語科で1年生から上下に分かれているもの、高学年になって1冊になるもの、全部が1冊のものとあるようですが、この利点と欠点みたいなものがあれば教えてください。

○説明員 1冊にまとめてあるものは、全ての単元を見通してできるという利点がございます。しかし、1冊にいたしますと、子どもたちが持ち運ぶときに、それをいつも持っていかなければいけないので、重いという欠点がございます。

○宇田川久美子委員 光村図書は、教科書に1年生から「はばたき」や「わかば」、「あおぞら」といった名前が付いているのはなぜですか。

他の教科書は、例えば、「ひろがる言葉」と意味が分かるのですが、どうしてこのような名前が付いているのか分かれば教えてください。

○説明員 副題のところですね。これについてはお時間をいただきたいと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市では、本年度から草加市子ども読書活動推進計画ができて、読書活動にも力を入れていますが、読書指導という視点、観点から見たときに、教科書を見て、草加市の子ども読書活動、興味・関心や意欲などの特徴がより出ている教科書があれば教えてください。あるいは、どの発行者も大体同じように扱っているのでしょうか。何か読書に関しての特徴があれば、教えていただきたいです。

○説明員 読書につきましては、大切なところでございまして、各発行者工夫をしているところです。「読む」と「読み広げる」ということで、各単元に関連したものを最後にもってきたり、中で使ったりして読書指導について取り入れたものですので、これがないという発行者はございません。

○村田悦一教育長職務代理者 各発行者とも同じように載っていて、あまり差はないという理解でよろしいですか。

○説明員 はい。そうとらえております。

○村田悦一教育長職務代理者 もう1点。全国学力・学習状況調査で新聞を読んでいる子どもの学力が高いと新聞で報じられていましたが、国語として新聞を活用するなど、特徴的な教科書はありますか。これも先ほどの読書の関係と同じで、各者とも同じように新聞を作ることや、新聞を読む学習があるのか、何か特徴的なところがあれば教えてください。

○説明員 新聞という点だけを特に比較しなかったのですが、教育出版社は、特に、新聞記事を例にとり、身の周りの事象と絡めて「伝える力」の向上のために取り扱っております。ただ、新聞ということだけを取り上げて比較検討をしておりませんので、詳細にはお答え申し上げられません。

○井出健治郎委員 今日ご説明いただいた、草加市の実態を踏まえた調査研究の観点と異なる視点なので、なかなかお答えできないかもしれませんが、学力・学習状況調査などで草加はなかなか微妙な立ち位置にあります。なぜかを考えたときに、使っている教科用図書が、児童生徒にとって難しいのではないかと、つまり、理解しにくいのではないかと考えたりして、どの教科書が平易といったことはないと思いますが、今使っている教科書は学力向上という意味で、マッチしているかどうかということだけお聞きします。これは国語だけではなくて、後で他の教科も全く同じことをお聞きしようと思っておりますが、一言だけお答えしていただ

ければありがたいと思います。

○説明員 調査担当として、比較検討しているかと言われますと、なかなか広い範囲でして、お答えしづらいというのが本音でございます。ですので、実態と兼ねて、他教科と比較してということになりますと、事務局から数字があればお答え申し上げるという形になるかと思いますが、私自身が教えてみて、教科書が特に難しいということはあまり感じたことがありません。ただ、指導をしている中で、子どもたちを具体的に褒めて伸ばしていけば、そのときは大きく数値が上がりますし、マッチングがうまくいった授業展開によって子どもたちは伸びていくということは感じております。本校においてもそういうことがありますので、褒める指導、これまでもですが、これからも更に子どもが要求しているときにうまく褒め、それを教科書にいかして力にしていくことが大切だと、現場といたしましては感じているところでございます。

○高木宏幸教育長 1点よろしいですか。先ほど光村図書の実績で、特徴を説明していただきましたが、簡単に言えば、主体的に学べるような学びの流れや授業づくり、そういったところが非常に明確になっているということでした。例えば、話し合い活動であっても、どういうことに注意をし、どのような流れでやっていくと良いということが明確に示されていると受け止めたのですが、その点について、今まさに学力といった場合に、基礎・基本とともに考える力、深い学び、ここを伸ばすことによって学力も上がっていくということもありますので、その辺りをもう少し補足していただければと思いますが、いかがでしょうか。

○説明員 一番特徴的なのは、見通しをもってということが、どの発行者も工夫しているところではありますが、特に現行の教科書、今使っているものの特徴かと思われまして。「たいせつ」「ふりかえろう」というものをはっきりシンプルに書き出しているところが、使用実績の中でも、特に教える側も学ぶ側も使いやすかったですし、授業の中で深い学びの鍵になっていたかと思います。

また、最初の部分に教室をイメージしている図が目次のところにもあったかと思いますが、今の状態が国語の世界でも、自分たちがやっていることと教科書の中でも同じだということと、言語活動の学習の中で、具体的に近しいものがあるということが、授業をする上で、あるいは指導していく中で飲み込みやすいという利点がございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、書写に関しまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど、草加市の児童の実態のところで書く姿勢や筆記具の

持ち方に留意してということがありましたが、小学校１年生のときに鉛筆の持ち方、なかなか正しく持てない子がいると思うのですが、この５者の中で、持ち方についてはどのような違いがありますか。全てが同じではないと思うのですが、いかがでしょうか。

○説明員 持ち方につきましては、どの発行者も扱っております。ただ、表現の仕方や、表し方、あるいはポイントの置き方が少し違っています。キャラクターを使ってここが大事と示したり、写真の中に点線や赤線を付けて、これは筆の例ですけれども、示したり、上から見るようになっていたり、あるいは折れ、はね、払いなど、矢印で力を入れるところ、抜くところなどの強調があったり、線の太さで表していたりと、多種多様でございます。ただ、教科書を活用して子どもたちに持ち方のポイントを示していくという指導の段階が大事だととらえております。

○村田悦一教育長職務代理者 全部見まして、ポイントという話がありましたが、三つの視点で書いているのが東京書籍でした。四つの視点が日本文教出版と学校図書、七つの視点が光村図書、八つの視点が教育出版という形で、教育出版は八つの視点で鉛筆の持ち方、１年生でどこに気を付けて鉛筆を持ったらいいかということを示しています。さらに、教育出版は鉛筆の先を目に近づけないようにと安全面での配慮がプラス記載でされています。そういう意味でいくと、鉛筆の持ち方、筆記具の持ち方ということについて、小学校１年生から見ると、より多くの視点があり、これを教員が参考にしていくということを踏まえると、違いが出てくる気がします。

それから、書写は、私も書くことが好きで、かなり興味をもって各教科書を見たのですが、書写に関する事項の中に、日常生活や学習活動にいかすことのできる書写の能力を育成することが重要となる、という文言が出ていたと思うのですが、教育出版が、１年生で「学校の文字探検」というページが最初に見開きであります。この中にどんな文字があるのかということ、学校を探検しながら生活とのつながりで学んでいくという内容です。２年生になると、今度は生活科で町に出ていますよね。２年生の最初には「町の文字探検」ということで、生活、あるいは学習とのつながり、３年生では「文字の学習が始まるよ」、先ほど説明があった４年生では「いろいろな書き方の工夫」、５年生は「世界のこんにちは」、６年生は「文字の旅」というように、最初の教科書の見開きに２ページで書写に関する事項の日常生活や学習活動にいかすことのできる書写の能力の育成に関わるものが全て扉に見開き２ページで出ているというのも、教育出版の良いところかと思います。

また、先ほど学習の流れという中で、見通しをもつということが大事だと説明がありまし

たが、その見通しをもって書写、書くことをするためには、自分の経験から言うと、試し書きがあって、そしてまとめ書き、学校では清書と言いますが、その流れがしっかり出ているのも、教育出版だと思いました。学習の流れが、めあて、試し書き、考えよう、ここが大切、そしてまとめ書き、生かそう、振り返ろうという流れがしっかり出ています。そのことを考えると、私は、書写に関しては教育出版の扱いが草加の子どもも含めて良いと考えます。

もう一つ、先ほど草加市の実態の説明で、美しい文字を書くようにということでありましたが、この書写に関する事項では、美しい文字を書こうということはありません。あくまで国語科書写ですから、芸術科書道とは違います。何が美しさかということ、小学校で国語・書写では整正の美、要するに正しく整っていることにその美しさがあり、そういうことでの美しさならいいのですが、それを抜きに、ただ美しい文字を書こうということになると、芸術科書道と国語科書写との境目がなくなってしまうと思います。

ですから、丁寧に書くこと、正しく書くこと、整えて書く、配列に注意して書く、毛筆を使用して筆圧などに注意して書く、書く速さを意識して書く、筆記具の特徴をいかして書く、毛筆を使用して穂先の動きと点画のつながりを意識して書く、これが書写に関する事項で目標になっています。美しいという言葉はどこにも出ていないということはしっかり押さえて、今後、草加市の書写の指導を進めていくことが大切だと感じます。

○説明員 おっしゃるとおりでございます。私どもといたしましては、美しいの前に正確な文字ということで、正確はやはり前面にもって草加市で出しているところでございますので、美しいというのは付け加えた部分もでございますが、まずは正しく書くということが国のねらいでもございます。

なお、教育出版社を例にとっていただいて、分かりやすく提示して目当てをはっきりもたせるという意味では、大変特徴がある教科書だと思います。ただ、我々担当がすぐこの教科書がいいですということは、どこの教科書も特色を分類して出しているので、委員の皆様にご検討していただく中で選んでいただければと、我々はその一助となれぱと考えております。

○宇田川久美子委員 草加市では、今は国語も書写も光村図書ということで同じですが、同じであると関連性などはありますか。

○説明員 やはり発行者が同じですと、単元が進み国語の授業をしている中で、書写でもポイントを押さえることができます。低学年は特にですが、ポイントを押さえているという点では、同じ発行者ですと共通性があるというところがございます。ただ、同じでなければい

けないということではないので、それにつきましてはご検討いただければと考えております。

○宇田川久美子委員 何か単元がリンクしているといったことではないのでしょうか。

○説明員 端に単元のことが出てきたり、その文章を使って書き進めたりという場面もございます。

○村田悦一教育長職務代理者 確認ですが、今、中学校は、国語と書写はどの教科書を使っていますか。

○説明員 中学校につきましては、国語は光村図書、書写は東京書籍でございます。

○村田悦一教育長職務代理者 そうすると、現在、中学校では国語と書写で異なる教科書を使用しているということですね。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校音楽、国語、書写の教科用図書に係る採択に入ります。

採択については、無記名投票で行いたいと思います。これから委員の皆様投票用紙を配付いたします。採択すべきと思う発行者の投票欄に1者だけ丸をお付けください。記載はボールペンでお願いいたします。

なお、複数の発行者に丸を付けたり、丸以外の印を付けたりした場合には無効となりますので、ご注意ください。書き損じをされた場合には、はっきりと分かるように二重線で消していただき、新たに丸をお付けください。投票は、記入していただいた後に、加藤委員から順に時計回りで記入した全ての投票用紙を半分に折った上でお入れください。何かご質問はございますでしょうか。

それでは、投票用紙をお配りいたしますので、事務局で確認をお願いします。

お手元に投票用紙はございますでしょうか。記入をお願いしたいと思います。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空かどうか確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 投票漏れはございませんか。

開票状況につきましては、加藤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 集計結果を発表いたします。

集計の結果、音楽につきましては、株式会社教育芸術社 6 票でございますので、株式会社教育芸術社といたします。

国語につきましては、光村図書出版株式会社 6 票でございますので、光村図書出版株式会社といたします。

書写につきましては、光村図書出版株式会社 5 票、教育出版株式会社 1 票でございますので、光村図書出版株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、10時55分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開いたします。

○高木宏幸教育長 次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 社会・地図

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 社会科の教科書についてご説明申し上げます。

まず、草加市の児童の実態でございますが、情報化社会が到来し、今後、それが急速に進展するといわれている今日、調べ学習や体験的な活動は意欲的ではありますが、調べた内容から自分の考えをもつことや自分の言葉で表現する力、そして、正しい情報を取捨選択するとともに資料を読み取り、それを活用する力の育成が必要であるということが分かります。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、社会科におきましては、教科書、地図帳ともに、１「言語活動の充実」、２「資料の活用能力」、この２点を設定しました。

それでは、６年生の歴史学習、特に鎌倉時代における武士の登場の単元を例にとりてご説明を申し上げます。

初めに、東京書籍につきましては、学習指導要領との関わりで、その特徴を申し上げますと、問題解決学習の形式がとられ、見通しをもった流れとなっております。教科書の１６、１７ページをご覧ください。学習の進め方として、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が明確です。具体的には４９ページをご覧くださいいただければと思います。

続きまして、５６ページをご覧ください。単元のまとめには、「せりふを考えて、４コマまんがを完成させよう」を始め、新聞、年表、話し合い、キーワード作文など、様々な方法が提示され、表現方法を学べるように工夫されており、言語活動を意識した構成となっております。

また、資料につきましては、多彩な資料が学習課題に応じてバランスよく配置されており、資料を活用して課題解決に取り組む工夫がされております。さらに、記述内容や各種資料、学び方やキーワードが大変充実しており、４６ページにありますように、重要語句について解説されていることで、表現のスキルを学ぶことができるように工夫されております。

続きまして、教育出版につきましては、学習指導要領とその関わりで、その特徴を申し上げますと、２ページ、３ページにありますように、記述内容、各種資料の構成、様々なコーナーの提示により、基礎的・基本的な知識の理解に重点を置いた配慮がされております。

次に、４６ページをご覧ください。小単元のまとめにはワークシートで振り返りをして、確実な知識の定着を図ることができる構成となっております。また、３９ページのように年代が表示されていたり、４１ページのように人物の写真が大きく、かつ、見やすいように整理して記載されております。さらに、９ページから１１ページにありますように、単元の導入部分では単元全体を貫く見開きの大きい資料などを掲載し、活用できる工夫がされております。

次に、光村図書出版につきましては、学習指導要領との関わりで、その特徴を申し上げますと、２ページ、３ページにありますように、問題解決型学習の形式がとられ見通しをもった流れとなっております。ホップ（見つける）ステップ（調べる・話し合う）ジャンプ（まとめる・広げる）というように学習段階が明確であります。具体的には４６ページ以降をご

覧いただければと思います。

また、56ページにありますように、特にまとめの段階では話し合い活動を重視し、交流により深まった考えを多様な言語活動で表す工夫が見られます。さらに、44ページ以降にありますように、大きな写真やイラストを多く掲載し、子どもたちがイメージしやすいように工夫されております。また、上巻・下巻を1冊にまとめているということも特徴の一つでございます。

最後に、日本文教出版につきましては、学習指導要領との関わりで、その特徴を申し上げますと、44ページ以降にございますように、記述内容が詳細で、基礎的・基本的な内容が丁寧にまとめられております。また、小单元ごとに小学生のキャラクターが吹き出しで課題を設定しております。例えば、「新しくあらわれた武士はどのように力をつけていったのだろう」、「源頼朝はどのような政治をおこなったのだろう」などの問いかけが常に提示されております。また、太字での明記も多いのが特徴でございます。さらに、50ページにありますように、「ふりかえってみよう」という振り返りのコーナーを分かりやすく見開きに示して、その手順や振り返りシートを活用することで言語活動を取り入れております。

続いて、地図でございます。

東京書籍につきましては、指導要領との関わりで、その特徴を申し上げますと、写真やキャラクターを多く用いることで地図への親しみをもたせる工夫がされております。特に、41ページ、42ページにありますように、キャラクターが地図を読み取るためのヒントを詳しく話すとともに、地図上に示されている記号が多く、初めて学習する子どもがイメージしやすい構成となっております。さらに、A4判で作られているということで、文字が大きく見やすいことが大きな特色であります。また、全ての地図に縮尺が物差しとともに掲載されており、実際の距離を計測しやすいように配慮されたものとなっております。

最後に、帝国書院につきましては、学習指導要領との関わりで、その特徴を申し上げますと、37、38ページにありますように、大変資料が豊富で、それを活用して学習課題の解決に向けた取組ができるような工夫がされております。例えば、65ページ以降にありますように、同じ縮尺の地図が多く掲載され、異なる社会的事象を比較、関連付けることで資料を活用しやすい構成となっております。

また、色合いについてもバランスよく、土地の高低などが一目でその違いが分かるように工夫されており、これは地図の見やすさに配慮されたものとなっております。さらに、36ページにありますように、地図の読み取り方や資料の見方などを示すことで、児童の主体的な

学びを促す工夫がされております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思いますが、まずは社会についてのご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○小澤尚久委員 先ほど草加市の児童の実態を踏まえてということで、資料の活用能力を挙げられていたと思いますが、その点から考えて、特に教科書のこういうところが草加市の子どもたちに分かりやすい、上手く表現している、そういったことを含めて比較していただければと思います。

○説明員 6年生の教科書を例に申し上げますと、どの発行者もこのように取り上げております。まず、東京書籍につきましては、目次のページにあります「まなび方コーナー」をご覧くださいいただければと思いますが、そこにグラフの読み方、それから歴史、地図の読み方、資料の読み方などと、それぞれどのような学び方をしたらよいかについて、見る・聞く・ふれる・読み取るという項目ごとに参考となるものが掲載されております。

次に、教育出版につきましては、同じく目次のところでございますが、学び方の手引きというところをご覧くださいいただければと思います。想像図を読み取る、絵画資料から考えるということで、この欄に読み取り方が載せてあります。

また、光村出版につきましては、5ページに「この本に出てくるたいせつ」という欄に、想像図を読み取るや資料から引用・要約するなど読み取り方が記載されております。

最後に、日本教育出版につきましては、例えば133ページのところにあります学び方・調べ方コーナー、読み取るという欄におきまして、移り変わりを表すグラフの読み取り方ということで具体的にその方法が記載されております。

○宇田川久美子委員 観点のことで「言語活動の充実」とありましたが、何か具体的に観点を入れる箇所があったら教えてください。

○説明員 例えば、東京書籍で言いますと、17ページに学習の進め方が載っておりますが、最後のまとめのところに詳しく出ております。その他の教科書につきましても、最後の振り返りの場面のところにおいて、言語活動を視点に当てた内容が記載されております。

○宇田川久美子委員 先ほどの説明で、光村図書は上下巻が一つになっているのが特徴という話がありましたが、その特徴はどのようにいわれるのでしょうか。良いところ、悪いところはありますか。

○説明員 まず、合冊になっているところのメリットと言いますと、児童の主体的な学びと

ということかというと、実際に自分の学習を振り返る、あるいは調べるときには1冊になっていたほうが、より良い形かと思います。デメリットといたしますと、合冊になっていることでやはり教科書が厚くなり、重くなるということがあります。

○村田悦一教育長職務代理者 今、6年生の教科書のご説明をいただいていますけれども、実際には資料集も副読本として学校で扱っているところも多いと思います。資料活用能力が研究の視点ですが、その前に正しい情報を取捨選択するという説明がありました。この辺りについて、子どもたちが授業の中で、あるいは教科書等で正しい情報を取捨選択するということはどういうことを言っているのでしょうか。教員が教えていく中で、これが正しいと強調していくのか、子どもたちが調べていく中で、自らこれが正しいと見付けることなのか、正しい情報を取捨選択するということについて説明をいただければと思います。

○説明員 これからの社会を生き抜く子どもたちが、身に付ける力の一つとして、この力は大きなものになると思います。それをまずは小学校の段階で身に付けさせるということで、二つあります。

まず一つは、社会という教科は資料が命ですので、数多い資料の中から、あえて子どもたちに本時の課題を解決するために、どの資料が必要かということを選ばせる時間、場面も必要です。

それから、あともう一つは、教員からこの資料の中では、特にこの部分が大切で、それを取り上げて深く掘り下げ、この資料からどういうことが分かるでしょうか、というような子どもたちでの取り上げ方をすることが社会科では必要だと思っております。

○村田悦一教育長職務代理者 もちろんこの教科書は、全部文部科学省が検定済みですが、学習指導要領が出され、そこにいろいろな指導事項があり、その中から正しいものを見付けていく。そういう意味で、基本的な教科書の作りは、大きな違いが出てきていますか。見ている中では、そこまで出ていない気もしますが、実際に教科書研究をしてみているかがですか。

○説明員 資料は、新しいものでないといけません。実際に統計や資料については、教科書に載っているものの後に新しい統計が出ることもありますので、教員につきましては、社会科の授業を進めるときに、常に、その視点をしっかりとって新しいものを与えることができるようにしていく必要があります。

○高木宏幸教育長 先ほど東京書籍の使用実績として、コーナーを設けて、語句の解説などを示すことで系統的に学ぶことができたという説明がありましたが、今、話にあったように、社会科の場合、特に問題解決的な学習、これは非常に重要だと思います。そのために、例え

ば、東京書籍であると学習の進め方というページを作っているということでしたが、いわゆる問題解決学習という点で、東京書籍を使ってみて、学校での評価はいかがでしたか。

○説明員 問題解決的な学習の形式、流れで、教科書はどれも、表現は違うのですが、同じような形で作られています。その中で、東京書籍につきましては、進め方、流れというものが非常に詳細に示されております。それによって二つありますが、まず一つ目として、教員はこの流れに沿った授業を日々進めることで、問題解決的な学習を積み重ね、展開することができます。二つ目は、子ども側にとってみますと、そういう授業を日々積み重ねることによって問題解決的な学習の流れが身に付き、主体的に学習をする力が身に付いてきております。

○村田悦一教育長職務代理者 今改めて見て、帝国書院の73ページに日本のすがた、それから東京書籍の75ページに日本の都道府県の統計がありまして、人口を見ると、どちらも2015年現在ですが、北海道は、帝国書院では543万人、同じ2015年で東京書籍は540万人、3万人違います。青森県も135万人と134万人で違います。素朴な疑問としてお聞きしているので、もちろんそれについてのお答えは難しいと思いますが、特に、社会科は資料をどう使っていくのか、使わせていくのが重要なので、なぜそういう違いが出てくるのか発行者に問うこともできると思います。このように違っているものが検定で認められるということ自体どうなのかという気もします。

○高木宏幸教育長 今、地図にも言及されましたので、地図も併せてご質問、ご意見があればお願いいたします。

○宇田川久美子委員 村田委員の質問についてですが、どちらも検定済みで、東京書籍は平成26年の工業統計表で、帝国書院は平成25年の工業統計表なので、東京書籍が新しい、同じもので比較していないのかと思いました。

○村田悦一教育長職務代理者 ただ、人口は両方とも2015年現在ですので、そこで違う数字になっているということがどうなのかと疑問をもったところです。

○宇田川久美子委員 現在と書いているか、書いていないかでしょうか。

○村田悦一教育長職務代理者 例えば、我々が習ったのは、鎌倉幕府は「いい国」つくろうで1192年。それがもう違ったり、歴史の解釈も、どんどん変わってきて、当然、反映していくことになると思いますが、やはり生きた資料をどのように子どもたちに考えさせていくのが大事だと思います。

○宇田川久美子委員 地図帳についてですが、3年間使うものだと思うので、使う頻度にも

よると思いますが、耐久性の工夫などはいかがですか。

○説明員 耐久性につきましては、どちらの教科書とも3年間しっかりと継続的に使えるように工夫はされております。

○宇田川久美子委員 帝国書院は丈夫そうな気がします。東京書籍は教科書と同じ素材のような気がします、帝国書院は特別な素材なので聞いてみました。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 算数

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 算数科についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、平成30年度埼玉県学力・学習状況調査の結果につきましては、領域の数と計算、問題形式の選択式や短答式の問題においては県平均正答率を上回りました。このことから、算数科における基礎・基本の定着について向上傾向にあると言えます。

また、領域の数量関係、問題形式では、記述式の問題において県の平均正答率をやや下回っていることから、草加市の児童の実態は、数学的活動を通した思考力、表現力を着実に育成することが課題であると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、算数科においては、「発達や学年の段階に応じた指導への配慮」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年のものを例にとってご説明させていただきます。

東京書籍につきましては、初めに、教科書1ページの目次をご覧ください。それぞれの学習単元について、前の学習として、これまでのどの学習とつながっているのか、また、後の学習として、この後、中学校数学のどの単元につながっていくのか、学習の系統性が一目で分かるように示されています。

次に、8ページ、9ページをご覧ください。線対称の学習内容について、問題提示、考え方の見通し、課題解決、まとめ、適用問題の流れで構成されており、問題解決的な学習に児童が取り組みやすく構成されております。

次に、40ページをご覧ください。ページの一番下に小学校での学習内容が中学校数学に

どのようにつながっていくかが具体的に示されています。さらに、209ページをご覧ください。中学校体験入学コースとして、正負の数や平方根の考え方などが5ページにわたって分かりやすく紹介されています。

次に、大日本図書につきましては、初めに10ページ、11ページをご覧ください。余白を少なくし、文字を大き目にして、ページいっぱいに学習内容がレイアウトされています。

続いて、32ページ、33ページをご覧ください。問題解決的な学習が進められるよう解決の仕方を複数提示したり、考え方などを直接書き込めるようにしたりするなどの工夫が見られます。また、201ページをご覧ください。「数学の世界へ」として発展問題を取り上げ、中学校数学とのつながりが示されています。

次に、学校図書につきましては、8ページ、9ページをご覧ください。単元導入をシンプルにするなど、全体の学習内容を精選されています。そのことにより標準時数に対して一、二割少ない時間数で単元を扱うことができます。

次に、61ページをご覧ください。5・6年生の教科書には言葉のコーナーに筋道を立てて論理的に説明するときに役立つ表現が示されています。また、6年生別冊の24ページをご覧ください。「中学校へのかけ橋」として、中学校数学とのつながりが別冊にまとめて示されています。

続いて、教育出版につきましては、48ページ、49ページをご覧ください。問題に合わせて挿絵や数直線が分かりやすく示されています。

次に、58ページをご覧ください。こちらにはテープ図と数直線が組み合わされたものが示され、児童がそれらを用いて課題解決しやすくするための配慮がなされています。また、教科書に書き込みながら学習できるように工夫されています。

続いて、188ページをご覧ください。「数学へのとびら」として、算数の復習をしながら中学校数学の考え方に触れられるようになっています。

次に、新興出版社啓林館につきましては、8ページ、9ページ、10ページをご覧ください。写真や挿絵などが大きく提示されており、児童が問題場面を把握しやすい工夫がされています。

次に、160ページ、161ページをご覧ください。こちらも地図が大きく提示されています。実際の地図を用いることで問題場面が実生活にいかされやすい構成となっています。また、239ページをご覧ください。算数から数学へ、「これから何を学ぶのでしょうか」では、算数と数学がどのように関連しているかが説明されています。

最後に、日本文教出版につきましては、６年生上巻の１２ページ、１３ページをご覧ください。Ｂ５のワイド判の大きさをいかして、ページの右側に縦置きブロックがあり、学習のポイントなどが分かりやすく示されています。

次に、３４ページ、３５ページをご覧ください。児童の説明の仕方の例が示され、言語活動を深めるための配慮がされています。

続いて、６年生下巻の９６ページをご覧ください。「もうすぐ中学生」では、中学校数学との関連が説明されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員　算数において、筋道を立てて考えて説明する能力が大切だということで挙げられていると思いますが、そこで、特に各発行者のこういうところが工夫されていて、草加の子どもたちが使用するに当たって、こういうところが適しているというところがあれば挙げていただいて、もしできれば比較していただければということが１点です。

もう１点は、この６年生の教科書の単元配列をとっても、教科書会社によって違っていると思いますが、草加の子どもたちが使うに当たって、こういう点が特徴的だとか、こういう点が効果的だということがあれば教えてください。

○説明員　それでは、まず１点目の筋道を立てて説明する力、これについてでございますが、算数ができなくなる子どもの多くは、低学年から考えることを積み重ねることが少なかった子どもに多く見られます。文章題を読んだら絵にさせる、その絵を式にする。文章・絵・式、この三つの相互関係がきちんと成り立つイメージが子どもたちの活用力につながります。この積み重ねを低学年からしっかりと行っていくことが有効と考えます。

１年生の教科書、足し算の単元を見ていただいてもよろしいでしょうか。東京書籍では、１年生の上巻、３８ページ、３９ページをご覧ください。３８ページでは、単元導入で足し算の考え方、合わせて何個、全部で何本といった場面を、絵と半具体物のブロックで分かりやすく最初に提示してあります。このことを使って順番に問題を解き、自力解決を図って考えを深めていける流れとなっております。

同様に、他の教科書会社の足し算のページをご覧ください。大日本図書では、３７、３８、３９ページとなります。大日本図書では最初に挿絵を、次に単独で数ブロックを、３９ページでは絵から式を起こす図となっております。

続いて、学校図書は、３２ページ、３３ページをご覧ください。こちらは実際の写真で、２人の子どもが花を２本、１本、それぞれ持っているものを花瓶に挿すという写真を使って話をする活動から入っています。その後、３３ページでは、金魚は合わせて何匹になるかというところの絵をあえて完成させない形で載せてあることによって、子どもたちのイメージを膨らませる工夫がされています。

続いて、教育出版では、３９、４０、４１ページとなります。特に教育出版は、４１ページにノートの使い方、そして金魚の数を、丸を使ってノートに記す、矢印を用いて全部で何匹になるかを簡単な図で表すといった例示がされています。

続いて、啓林館では、４０、４１ページになります。４０ページではカエルの絵に数ブロックを初めから並べておくことによって、その後の数ブロックの操作がスムーズに行えるように工夫されています。

続いて、日本文教出版です。日本文教出版では、３２ページ、３３ページとなります。やはり身近な生活場面の絵を見開きで大きくとることによって、子どもたちのイメージを膨らませやすく工夫されています。

このような各発行者の工夫を１年生から丁寧に系統立てて行っていくことで、絵はやがてテープ図や数直線、表やアレイ図といった算数ならではの表現方法に置き代わっていき、それらを根拠として筋道を立てて考え、言葉や式で表現できるようになる力が身に付いていきます。

２点目の教科書の単元配列についてでございますが、東京書籍では、６年生の教科書をご覧ください。学年の初めに図形単元をもってくることで、全学年からの復習などがしやすい配列となっております。その後、掛け算、割り算の計算を学習し、図形を挟んで比と比の値、拡大図と縮図といった数量関係の配列をするというように、年度当初の子どもたちの発達段階に合わせて難易度が徐々に上がっていくような配列となっているので、学年の初めのところの学習が円滑に進められるような配列と工夫されています。

大日本図書では同様に図形から入っていますが、文字式を使った式を対称な図形の次に入れ、その後、分数の掛け算、割り算といった流れになっております。

学校図書につきましては、大日本図書とおおむね同じ単元配列となっております。対称な図形の後に文字と式、その後に分数の掛け算、割り算といった計算領域が来ます。

続いて、教育出版につきましては、最初に文字を使った式を取り扱います。その後、対称な図形、図形単元、続いて分数の掛け算、割り算、計算領域という流れになります。

続いて、啓林館です。啓林館は、東京書籍と同じような流れになっています。図形、文字と式、分数の計算という流れになっております。

最後に、日本文教出版ですが、こちらも啓林館と同じような流れになっております。図形、文字と式、分数の掛け算、割り算というような形になっており、東京書籍は図形、円の面積、文字と式、分数の掛け算、割り算というように、他の計算領域よりも先に図形を前にもってきているところが特徴となっております。

○小澤尚久委員 その順序もそうなのですが、図形と面積を合わせてとか、文字式だとか、掛け算だとか、計算を合わせてだとか、そういった意図的な配列になっているところも特徴ということですね。

○説明員 はい。

○宇田川久美子委員 草加市の実態を踏まえた調査研究の観点で、「発達や学年の段階に応じた指導への配慮」ということですが、この発達段階を踏まえて学年ごとの特徴的なところはありますか。

○説明員 各発行者とも低学年では文字が大きく、写真や挿絵、イラストを多目に取り入れて、学習内容が分かりやすく、児童の興味・関心を引くものになるよう工夫がなされています。中学年では数直線や線分図などを段階的に取り入れて、児童がそれらを式と結び付けて説明しやすくしています。高学年では図や表、グラフ等を活用して思考を深められるように工夫されています。また、吹き出しや注釈を付けて自力解決におけるつまづきへの支援がなされていたり、既習事項との関連や発展的な学習内容について、児童が主体的に学ぶためのヒントなどの配慮が多くなされています。特に、第6学年においては、小学校算数と中学校数学との円滑な接続が図られるような工夫が見られます。

○宇田川久美子委員 どの会社も共通でしっかり配慮がなされているということですね。

○説明員 はい。

○村田悦一教育長職務代理者 今のことと関連してですが、各学年の発達段階に応じて、例えば1年生の足し算で、草加市の子どもたちの発達段階に一番合っているのはどういう学習展開でしょうか。それぞれ工夫はされていますが、一つ際立って草加市にはこれが合うというものがあるのか、また、教科書はどこを使っても同じなのか。この中で言うと、例えば「あわせていくつ」という単元であれば、草加市の子どもに合っているのはこの発行者といえるところはありますか。

○説明員 草加の子どもたちの実態を踏まえて、草加っ子の学びを支える授業の5か条がご

ざいます。算数においても、第1条で学習の目標めあてを明らかにする。第2条で児童生徒が自分で考える時間を設ける。第3条では、児童生徒が表現と交流をする場を設ける。第4条、学んだことを活用する場を設ける。第5条、学習のまとめと振り返りの時間を設ける。こういった流れを授業の5か条として各学校で授業の充実を図っているところですが、例えば、6年生の東京書籍の線対称の8ページ、9ページを見ていただくと、最初に課題提示がされ、こういうふうにやってみようという見通しがなされ、児童の自力解決を促す問題が出され、最後に、まとめとして大切なポイントが押さえてあり、そして、適用問題で身に付くといったこの流れが非常に分かりやすく、どの単元においても各学年において、よくまとめられており、東京書籍のこの構成は非常に子どもたちの学力の向上につながっているのではないかと考えます。

○村田悦一教育長職務代理者 1年生では、東京書籍、学校図書、教育出版の3者が、足し算の、ちょうど今の時期、1学期の前辺りでは子どもたちに合っていて、もし私が選ぶとしたら、この3者だと思います。ただ、ここだけで選ぶわけではないので、全てを見て良いところも、合っているところもあると思うのですが、例えば、具体的に選定では、今の草加の子どもたちの発達段階に合っているのはこれなのだとある程度絞り、個人的な考えになるのを踏まえて選定委員会で話すことになるのでしょうか。この足し算の単元を見ると、私はこの3者だと思うのですが、この辺りについて、何かもしあれば教えていただきたいです。

○説明員 東京書籍と残りの2者についてということでしょうか。

○村田悦一教育長職務代理者 この3者が、足し算の単元のことを考えると良いかと思いました。そうではなくて、草加の子どもたちであれば他の発行者が良い、また、これは全てに特徴があるので、そうやって比較するものではないということがあるのでしょうか。その辺りのところで、何か選定委員の中で考えがあれば、教えてほしいと思います。

○説明員 1年生の「あわせていくつ ふえるといくつ」の単元では、分かりにくい部分ではありますが、東京書籍は既習事項を押さえる単元導入が丁寧になされているものが多いです。ですので、既習事項をしっかりと、全学年までで学んできたことを押さえた上で興味・関心を引きながら、大切なポイントを押さえて問題解決に入るといような単元構成になっている単元が多いです。

「あわせていくつ ふえるといくつ」では、1年生ということもあり、既習学習というより、足し算とは、合わせていくつ、全部でいくつといったような場面が該当していくのだという最初の大切な部分を押さえた上で、問題が配列されているところに東京書籍は特徴があると

考えます。

○井出健治郎委員 先ほど国語のところでもお聞きしたのでお聞きします。児童の実態のご説明のところでは学力・学習状況調査のことに触れましたが、決して算数の学力は、必ずしも納得いくものではありません。今使っている教科書が授業のレベルに本当に合っているのかどうかというのは、個人的でも、選定委員のお立場でも、どちらでもいいのでコメントをいただきたいです。

また、子ども教育連携推進室で、算数等についてはカリキュラムを作成していて、1年生からこう学ぶと6年生のここにつながっていくというような取組もあります。そういった取組等が反映されている教科書、あるいは発行者は、例えば、6年生の教科書のこの単元は5年生のときのここにつながります、ということだけではなくて、4年生、3年生ともっと引き伸ばして、ここからしっかり見直したほうがいいと示してくれるような教科書はありましたか。

○説明員 まず1点目の、難易度が子どもたちの実態に合っているかについてですが、現行の教科書は適切な難易度になっていると考えています。

それから、例えば6年生の教科書で、5年生だけではなく、その前に戻りたくなったときにはというような配慮がなされているかということについてですが、東京書籍、現行の教科書では、6年生の250ページをご覧ください。こちらの巻末に振り返りコーナーがまとめられておりまして、例えば掛け算の性質で4年生まで戻ると、この学習内容を既に学習しているといったことが載っています。252ページ、253ページをご覧ください。図形については、いろいろな三角形、2・3年生の内容や、いろいろな四角形、2年生から4年生までの内容についても一目で振り返ることができるような巻末のまとめが付いております。

○加藤由美委員 東京書籍はページ数が259ページぐらいですが、啓林館は289ページ、随分分厚くなっていて、ページ数の違いというのは何かあるのでしょうか。

○説明員 全体的なページ数を見ますと、東京書籍は、ご指摘のとおり、6年生で言えば259ページ、一番多い啓林館では289ページとなっております。ここから巻末の付録にある部分を除いていき、学習内容に特化してページ数を見ていくと、どの教科書もおおむね180ページから190ページ前後となっております。学習内容そのものについては大きな差がないものと考えます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校社会・地図、算数の教科用図書に係る採択に入ります。

これから投票用紙をお配りいたしますので、事務局で確認をお願いします。
お手元に投票用紙はございますでしょうか。記入をお願いしたいと思います。
記入はお済みでしょうか。
次に、投票箱が空かどうか確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 投票漏れはございませんか。

開票状況につきまして、宇田川委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 集計結果を発表いたします。

集計の結果、社会につきましては、東京書籍株式会社 6 票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

地図につきましては、東京書籍株式会社 3 票、株式会社帝国書院 3 票であります。集計の結果、同数でございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育長による決定となります。私は、株式会社帝国書院を選びたいと思います。地図につきましては、株式会社帝国書院といたします。

算数につきましては、東京書籍株式会社 6 票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、午後 1 時まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

再開の宣言

- 高木宏幸教育長 それでは、再開いたします。
-

- 高木宏幸教育長 次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 理科

- 高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。
- 説明員 理科の教科書について説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、観察や実験の活動については意欲的ではありますが、それに伴って理科の見方、考え方を培うこと、実感を伴った理解をさせていくことが課題であると言えます。児童一人ひとりが自らのこととして課題を設定し、見通しをもって観察・実験に取り組み、結果を考察することを通して日常生活と関連付けたり、結果と自らの予想とを比較・検討したりすることが大切になってきます。このことから、児童一人ひとりが主体的・対話的に観察・実験に取り組むようにさせ、深い学びへとつなげていくことが必要であると言えます。

そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、理科においては、子どもの主体性ととも、観察・実験の技能に課題があるということから、「見通しをもって自ら観察・実験などを行うための工夫」を観点として取り上げております。

それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年のものを例にとって説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、問題把握、予想、観察・実験などの表記があり、問題解決の過程が統一されているということ、写真や文字が大きく、見やすく工夫されているということ、資料が巻末にまとまっており、子どもが学習をしながら参考にすることができるということです。

その特徴的な部分を紹介いたしますと、問題解決の過程については、148ページから150ページをご覧ください。問題、予想、観察・実験、結果、考察、まとめという学習過程が分かるように示されております。

次に、写真や文字の大きさについてですが、158、159ページをご覧ください。158ページの試験管の実物大写真、159ページの問題や実験後の文字などをご覧くださいと、

写真と文字が大きく見やすいことがご理解いただけると思います。

最後に、観察・実験の資料についてですが、１９９ページ以降をご覧ください。ここには例えば、顕微鏡の使い方が示されておりますが、それ以降、観察・実験の記録や資料が巻末にまとめられており、学習の途中でも巻末を開いて参考にすることができます。

次に、大日本図書につきましては、実験の扱いや読み物資料等が充実しており、読み物を読む楽しみも味わえる構成であるということ、観察・実験の注意が同じ紙面上にあり、自ら安全を確認しながら、観察・実験ができる工夫がなされているということ、自由研究の内容や手順、記録の表記が児童の主体的な活動を促すようにつくられているということです。

まず、実験の扱いや読み物資料ですが、４９ページをご覧ください。上段に「りかのたまてばこ」と称して読み物資料がございます。同じページの下段から次の５０ページ以降にも同じように読み物資料が続いており、観察・実験が難しい人体単元を読み物資料等で主体的に学習できる構成になっております。

次に、観察・実験の説明などの充実についてですが、９６ページをご覧ください。観察・実験中、必要なときに使用方法を確認できるようにページ内に使用方法の説明が書き込まれており、自ら観察・実験ができる工夫がなされています。

最後に自由研究についてですが、７８、７９ページをご覧ください。自由研究をしようと児童が考えたとき、その研究内容や研究の手順、記録の仕方が分かりやすく明示されており、児童の主体的な活動を促すようにつくられています。

次に、学校図書につきましては、教科書の横などにチェック欄があり、学習の流れを確認しながら学習を進めることができるということ、写真や図、資料などが豊富で、児童が資料としての活用を図ることができるということ、教科書に直接書き込むことができる場所が設けられているということです。

まず、教科書のチェック欄についてですが、１０ページをご覧ください。中ほどの話し合いの見出し横にチェック欄が設けられており、学習過程や問題解決の流れを自ら確認しながら学習を進めることができるようになっております。次のページをご覧くださいても実験の見出し横にチェック欄がございます。

次に、写真や図が豊富であるということですが、１５８ページをご覧ください。カラフルで自分の結果と比較ができる写真が多く掲載されております。１６１から１６２ページにかけてご覧ください。写真や図、資料などが豊富に使用されており、資料としても大変充実しております。

最後に、直接書き込むことができることについてです。177ページをご覧ください。このように教科書に結果を直接書き込むことができる表などが設けられており、学習途中の覚書としても有効に活用することができます。

次に、教育出版につきましては、中学校との学習のつながりを強く意識した構成になっているということ、また、単元の導入において学んだことや生活経験をもとに課題設定ができるような工夫もされているということ、さらに、ノートや記録の例が示されており、観察・実験の記録やまとめを行う際の参考にすることができるということ、そして、それぞれの場面で子どもの吹き出しが豊富で、子どもたちの思考の助けになっているということです。

まず、学習のつながりと導入の工夫についてですが、6ページをご覧ください。単元の最初のページに他学年及び中学校との学習のつながりが示されており、既習事項の確認や先の学習の見通しをもって学習に取り組むことができます。生活経験を想起する写真も数多く掲載されております。

次に、ノートの記録例についてですが、76、77ページをご覧ください。子どものノートや記録の例が示されており、それぞれの単元で観察・実験の記録やまとめを行う際の視点のもち方、記録方法の参考にできます。主体的に学習を進める工夫がなされております。

最後に、話合いの場面についてですが、現在お開きの76、77ページでもお分かりいただけたと思います。子どもたちの話し合う様子が吹き出しとなっており、観察や実験で話し合う場面が多く設けられており、子どもの思考力、判断力、育成の手助けになっております。

最後に、新興出版社啓林館につきましては、予習・復習などを家庭でも行うことができる理科プラスが別冊で付いているということ、また、算数との連携が強く図られているということ、身近な材料を使ったものづくりが多く紹介され、児童が学習の発展にチャレンジできるようになっているということです。

まず、別冊についてですが、巻末に挟み込んである別冊をご覧ください。この理科プラスは書き込み場面が多く、予習・復習などを家庭でも行うことができるように工夫されています。

次に、算数との連携ですが、教科書の190ページをご覧ください。このページに算数との連携が求められており、6年生の燃焼の仕組みや人の体のつくりと働きの学習などで利用する帯グラフが示されております。このほか、各学年の学習内容に合わせて、長さや重さの単位、グラフの表し方などの学習にいかせる資料が多く掲載されております。

最後に、身近な材料を使ったものづくりについてですが、186ページをご覧ください。

ペットボトルを使って肺の様子を観察できる実験器具づくりなど、身近な材料を使ったものづくりが多く紹介されており、児童が学習の発展にもチャレンジできるようになっております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 全ての教科の中で、理科だけ小学校と中学校と使われている会社が違いますが、整合がとれなかったり、不具合があったりなどはあるのでしょうか。教えるのは違う人ですが、子どもたちは見慣れていたほうが良いということはあるですか。

○説明員 確かに理科だけ小学校と中学校で採用されている発行者が違います。小中一貫という観点からすると、そろっているほうが良いのかもしれませんが、それぞれの発行者が学習指導要領を基に教科書を作成しておりますので、内容に関しては、会社が違っていても整合性などの問題は特にございません。子どもたちは、小学校から中学校に上がって校舎が変わっても順応していますので、発行者が違っていても、それほど大きな違和感はなく、学習に臨めていると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 あまり今は聞かなくなりましたが、以前は理科離れということが叫ばれていました。そういう意味で、興味・関心や主体的に学ぶ喜びは、どの教科書で学べばよいかという視点から、何か特徴的なことはありますか。逆に、どの教科書も工夫されていて同じなのでしょうか。研究した後で何か見えてきたものがあれば教えてください。

○説明員 理科離れというのは、言われて久しいところでございます。私が様子を見ていますと、子どもたちは観察・実験はとても好きですが、理科の教科としては、というところがありますので、子どもたちの受け取り方も先生の指導の仕方によって大分変わってくところがあると思います。今、ご質問にありました理科離れを食い止めるような手立てですが、やはり、どの発行者も工夫されていて、読み物資料を多くして発展的なところをより充実させている発行者もありますし、ものづくりというところで学習したことをいかしてもものづくりのものを紹介して、さらに学習ができるようにしている発行者もあります。どの発行者もここは特に載っていないということはございません。それぞれの発行者で様々な工夫をされておりますので、理科離れに子どもたちの興味・関心を高めるような手立てはどの発行者もなされていると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 関連して、理科離れというのは、先ほどもお話にあったよう

に、実験だと思います。そこで大切なのは、実験での安全への配慮だと思います。時々、新聞やテレビで、理科の実験中に、ということがありますが、安全への配慮という視点で、この発行者は特に安全への配慮が二重、三重、行き届いているなど、当然どの教科書にも載っていると思いますが、特に実験への安全に関して、何か気付いたところがあれば教えてください。

○説明員 発行者ごとの詳細な部分までは把握できていないのですが、調査・研究をしたところでは、発行者によって実験のところに説明がそれぞれ入っている発行者もありますし、安全面というところで巻末にまとめている発行者もごさいます。黄色で囲んで赤の文字で示されているなど、どの発行者も安全に関しては配慮されておりますので、これに関して不足のある教科書はございません。

○小澤尚久委員 先ほど、理科の見方、考え方を一層養っていく必要があるというお話があったと思いますが、草加の子どもたちが使うに当たって、見方、考え方を養う上で、この取組、このページは特に有効的であるということがあればいくつか教えてください。

○説明員 学習指導要領の目標の中で、科学的な見方や考え方を養うという文言があります。それについては、児童が元々もっている見方や考え方を、科学的な見方、考え方に変えていく必要があるということととらえ、その有効な手立て、配慮という観点で説明させていただきます。3年生の教科書を例に説明させていただきます。昆虫の調べの単元についてでございます。

東京書籍の44ページ、45ページをお開きください。東京書籍では、比較するべきポイントについて吹き出しで示すことによって、分かりやすく提示されているということがございます。

大日本図書では、30、31ページをお開きください。完全変態、不完全変態と言葉をしっかりと明記した上で、卵や幼虫、さなぎなどについて色分けして相違点を分かりやすく掲載しております。

次に、学校図書につきましては、52、53ページをお開きください。こちらも同様に完全変態と不完全変態という言葉についてしっかりと明記して、相違点について詳しく説明されております。

次に、教育出版につきましては、46、47ページをお開きください。こちらは成長過程の相違点について、児童の思考を助けるようなポイントが吹き出しで書かれております。

啓林館につきましては、68、69ページをお開きください。こちらも卵、幼虫、さなぎ

など色分けして示して、さらに吹き出しなどを参考にして、比較して考えられるような工夫がされております。このようなところで、子どもたちは自分もっている見方、考え方を学習を通して科学的な見方、考え方に変えていけるような工夫がされているところがございます。

○村田悦一教育長職務代理者 今ここで2ページずつ説明がありましたが、この中ですと、ここが草加の子どもたちにぴったり合っているといったところまで調べているのか、調べていないのかお伺いします。もちろんここだけで判断できるわけではありませんが、専門的な立場で、どこを使っても同じなのか、この中でも、ここが良いという教科書はあるのでしょうか。

○説明員 具体的にどこの発行者を選ぶまでの話し合いはしておりません。ただ、それぞれ特徴的なところがございますが、どの発行者も学習指導要領に準拠して、全てその検定を通っている教科書でございますので、そこに関しては、どの発行者でも草加の子どもたちの学習に関して、過不足なく進めることができると思います。

○宇田川久美子委員 どの教科もですが、理科ですと、例えば東京書籍は「新しい」、大日本図書だと「たのしい」、学校図書は「みんなと学ぶ」、教育出版は「未来をひらく」、啓林館は「わくわく」とサブタイトルが付いていて、これはその会社が一番意図しているところと理解していいですか。

○説明員 そうだと思います。申し訳ございませんが、教科書会社に確認しているわけではありません。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 生活科

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、生活科につきまして、ご説明を申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、様々な情報があふれている環境の中で暮らしている児童は、メディアを通じた知識獲得、いわゆる間接的な体験が多く見られ、地域や家庭において、人や物と関わりながら、自分で実際にやってみる直接体験が不足していると言えます。知っているようで、実はよく分かっていなかったということが多く、実感として分かるにはまだまだ体験が不十分であると言えます。調べてみたいという対象への興味・関心、意欲が

不足していると考えられます。また、草加市は幼保小中を一貫した教育を進めております。生活科におけるスタートカリキュラムの充実も大切であると考えております。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、生活科においては、「幼保小連携の視点と気付きの質の高まり」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明を申し上げます。各発行者の上巻につきまして、ご説明をさせていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、1 から 8 ページに「スタートブック」として、幼保小の連携を意識した学習展開を図り、スモールステップで課題を探究できるよう十分工夫されております。

次に、5 4、5 5 ページをご覧ください。「どんなすみかがいいのかな」と流れを示し、観察、飼育、交流、発表、振り返りといった単元の展開が見開き 2 ページで分かるように配列されております。また、振り返りや話し合い活動を通し、気付きの質を高めることができるような体験と言葉をつなぐ言語活動を取り入れた点に特色が見られます。さらに、「ポケットずかん」や「べんりてちょう」は活用しやすく、調べ学習など児童の主体的な活動に役立っております。

次に、大日本図書につきましては、5 2 ページをご覧ください。「どんなところにいるのかな」と問いかけ、透明シートをめくるなどして考えさせて、気付きを深められるよう工夫がされております。

1 2 6 ページをご覧ください。「がくしゅうどうぐばこ」には料理の仕方など多くの学習資料が掲載され、技能の向上について配慮されたものになっております。上巻は「なかよし」、下巻は「はっけん」をキーワードに、対象と触れ合う段階から関わりを深める段階へと活動を広げる配慮をしております。

次に、学校図書につきましては、7 2 ページをご覧ください。「ものしりノート」には様々な活動例を示し、学校、地域の実態、児童の願い等に応じた学習ができるように工夫がされております。

1 1 7 ページをご覧ください。「学びかたずかん」には、児童に見付けさせたい内容が5つの項目で紹介されております。続く、「生きものずかん」、「あんぜんのページ」につきましても、児童にとって必要な内容が掲載されております。また、学習の展開を導入、計画、実行、振り返りのパターンで繰り返すことにより、学び方を見付けさせる工夫が見られます。

続いて、教育出版です。3 2 ページをご覧ください。単元の導入におきまして、「おしゃべ

りたいむ」が設けられ、児童の思いや願いを表現することにより主体的な活動を生み出す工夫をしております。

次に、43ページをご覧ください。単元のまとまりに当たるページには、「ふりかえる」、「おうちでちゃれんじ」を設け、実生活への活動を広げる配慮が見られます。

62ページをご覧ください。カードの書き方例が掲載されております。教員のコメントを載せることにより、気付きに広がりをもたせられるようになっております。

続いて、光村図書につきましては、初めに3ページをご覧ください。学習活動を「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で展開し、児童の主体的な活動を促す工夫をしております。

次に、36ページをご覧ください。大きな実物大の写真や色彩豊かなイラストにより、活動を促す工夫がされております。また、表現させたい内容や目的に応じて観察カードや手紙を示し、学習意欲を高める工夫をしております。

次に、47ページをご覧ください。「どうすればいいのかな」と対象への働き方を示し、考えさせることにより、気付きの質を高めるよう配慮がなされております。

続いて、新興出版社啓林館です。幼保小の連携を図った活動を取り上げており、「わくわく」においてスタートカリキュラムが工夫されております。また、上下巻のほか、別冊体験ブックがあり、3冊の構成となっております。

次に、40ページをご覧ください。取り扱っている各単元は、「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」の4段階で展開されており、見通しをもって活動できるように工夫されております。また、見開きの大きな写真を掲載し、学習の楽しさが伝わるよう配慮されております。

次に、日本文教出版です。末巻に設けられました「なんでもずかん」により、主体的に学習ができるよう工夫がされております。

次に、3ページ下をご覧ください。ここに紹介されている子どもたちが、年間を通して対象と関わり成長していく構成になっております。4ページをご覧ください。その1からその7はスタートカリキュラムになっており、小学校教育への接続が工夫されております。

次に、50ページをご覧ください。数種類のカードが掲載され、記録、表現に関して工夫が見られます。また、草花や野菜の栽培に関する内容が充実しております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 先ほど、幼保小の連携というお話がありましたが、そういった連携の観点で、スタートカリキュラムとして、どの発行者も充実していると思いますが、特に草加の子どもたちが使う中で、この活動、この記述が特に参考になる、有効に働くというものがあればいくつか教えてください。

○説明員 先ほど、草加の子どもたちの実態をお話しさせていただきましたが、直接体験が不足しているということ、それから、丁寧に視覚的にも分かりやすい内容になっているものが必要になります。そうした工夫を各発行者が行っておりますが、その中で3者について述べさせていただきたいと思います。

まず初めに、東京書籍でございます。最初の1ページになりますが、1枚めくっていただきますと、サイズが少し変わったような状況になっております。下に「スタートブック」と書き入れがありまして開きやすくなり、子どもたちが見やすく、確認しやすくなっております。実際に子どもたちや先生が地域の方々の写真で、現実感が出ているのではないかと思います。

また、自分でやってみる、隣人に挨拶をすること、友達みんなと仲よく、楽しく学習すること、終わりに「あしたのしみだな」といった順に、子どもたちの実態に応じた流れになっており、小学校生活がわくわくできるような感覚を育むようになっています。

次に、日本文教出版でございますが、2ページをご覧くださいと思います。「いちねんせいになったら」というタイトルで見開き2ページで1テーマ、その1からその7の項立てによりはっきりと分かりやすくなっております。草加の子どもたちにとってもより分かりやすくなっていると思いますが、学校生活全般、友達と仲よく、学校の決まり、通学、学校の一日等について、イラストによって更に分かりやすく提示されていることが良いと感じます。

最後に、教育出版をご覧くださいと思います。2ページから「わくわくどきどきしょうがっこう」として、4、5ページには幼稚園と小学校を2枠のイラストで比較をしております。こういったところからも子どもたちがより分かりやすく活動できるような状況ができると感じております。

○宇田川久美子委員 今は災害も多い時代になったと思いますが、何か災害時のことについて、それぞれ特色的に取り上げているものはございますか。

○説明員 生活科におきましては、大きく取り上げているものはございませんが、様々な活動の中で、指導が入ると思います。また、物や道具について、安全面での配慮ということが指導の一部になっておりますので、合わせて活動中の対応等につきましては、教科書にな

いとしても学校等で指導しております。

○宇田川久美子委員 何か特別に特色をもって扱っている教科書は特にはないですか。

○説明員 道路の渡り方や安全に気を付けようということが載っておりますが、これは基本的な学校生活を迎える中で入ってきていることなので、特化してということは特にございません。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の視点で幼保小の連携と、もう一つ気付きの質の高まりという話があったと思うのですが、気付きというのは、どういう観点から何を気付かせていくのか、それは発行者によって視点が違うのでしょうか。生活科においては、気付かせる視点は全部同じで、例えばこの教科書にはこの気付きにウエイトを置いているといった差が出ているのでしょうか。気付きの質の高まりということをもう少し説明いただければと思います。

○説明員 気付きにつきましては、基本的な考え方として、対象とするものに対して、一人ひとりが認識をしていくということ、子どもたちが主体的な活動によって生まれるものと言われております。また、知的な側面だけではなく、情意的な側面も含めて気付きが含まれるということで、自発的な活動が促せるような内容になっているということです。基本的には、各発行者につきましては、そこを押さえながらの表記、構成になっているかと感じております。

○高木宏幸教育長 今、話に出ましたが、草加市は幼保小中一貫教育を進めています。その中でも特に、小学校入学時の1学期に教育委員会がスタートカリキュラムとなるようなひな形を示し、各学校が、生活科だけではなく、いろいろな教科を含めてスタートカリキュラムを作っています。説明いただいた教科書もいろいろな特徴、どれもスタートカリキュラムに関連した編集をしていると思うのですが、現実に授業を行ってみていかがでしたでしょうか。東京書籍は現行の教科書ですよね。スタートカリキュラムを自分の学校で編成したときに、生活科の東京書籍の編集の考えをどのように受け止めているのでしょうか。

○説明員 基本的にスタートカリキュラムもそうですが、生活科においては、まず学校や地域の実態を踏まえるということ、それから使用する教科書を加味しながら、学校独自でカリキュラムを組んでいるということが生活科の大きなところになってくると思います。そうすると、学校の実態、子どもたちの実態、地域の実態を踏まえた中でカリキュラムを考えていく必要があるかと思います。そういった中では、スタートカリキュラムにつきましては、学校の独自性も少し出てきているのではないかと感じます。その中では、教科書を使いなが

ら、実態に応じた指導がしやすくなっていると思います。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次の教科書の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 図画工作

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 図画工作科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、小学校では「つくる」と「考える」は一体化していることに留意し、児童が主体的に活動する時間を十分に確保する指導を充実させることが大切であると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、図画工作では、造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることに視点を置き、「題材の設定」を観点にいたしました。

現在使用している開隆堂の教科書の特色、特徴等についてご説明申し上げます。説明で使う教科書は、５・６年上の教科書です。児童の発達段階に応じて系統的に構築した題材内容とともに、授業の課題やめあて、授業の内容や方法、培いたい資質や能力を明確に整理して、具体的に紙面に示してあります。また、培いたい資質や能力を整理し、学年の目標を示すとともに、表現の手順を図版や文章で提示し、感性を働かせながら作り出す喜びを味わわせるように工夫しております。さらに、図画工作で大切にしたいことや育てたい力を学習めあてとして、三つのめあてを目次に示しております。

５ページをご覧ください。各単元の横には、具体的な用具と材料を示してあります。題材内容を系統化してバランスよく配列し、マークで示してあります。黄色で塗り潰している単元名が選択単位でございます。

１０ページをお開きください。手順の説明が写真により丁寧で、より高い技能が習得できます。粘土作品のページで作品の示され方が多様な作品掲示とともに感性を培う工夫がなされております。また、完成作品のみでなく、作っている過程の作品の写真説明があります。

１１ページをお開きください。「ふりかえって、はなしあおう」に振り返りの視点が観点別
に示され、特に大事な項目は太字になっております。

１６、１７ページをお開きください。鑑賞の観点が青い枠内に書かれ、明記されております。

次に、教科書の使用実績についてでございますが、指導の発達段階に応じた作品や写真等

を大きく掲載するために、教科書の大きさがA4判で見やすくなっており、作品がイメージ化しやすいよう具体的な作品例が掲載されています。

44ページから47ページをご覧ください。主体的・対話的で深い学びが意識しやすいように資料コーナーの「パレットコーナー」「道具箱」等工夫されており、児童にとって分かりやすくなっております。同時に、「道具箱」で児童の安全面に配慮した記述もあります。

8ページ、9ページをご覧ください。自己評価として、「ふりかえって、はなしあおう」という欄が設けてあります。また、学習活動の視点についての指示コーナーが設けてあります。さらに、今日的な課題に対応できるようにカラーユニバーサルデザインに配慮しており、全ての児童たちに優しい教科書になっております。

続いて、現在使用している教科書以外の各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

日本文教出版でございますが、児童の発達段階に応じて創造することの楽しさを感じながら、判断し、表現することを通して、造形の基礎的な資質や能力を伸ばそうとしております。主体的表現活動を進めることができるように題材と共通事項に留意し、感性を働かせながら作り出す喜びを味わわせるように工夫されております。

5ページをご覧ください。各単元の横にマークを付けて学習活動のめあてが分かるようにしています。選択単元はございません。

8ページ、9ページをご覧ください。題材ごとの学習活動や指導の流れがつかめ、写真やその他資料で情報量を増やしております。題材の初めに項目とめあてが示されています。

12ページ、13ページをご覧ください。児童の作品場面が多く取り上げられ、児童にとって身近な参考作品になっております。どのページも興味を引く单元名のレタリングの工夫がされております。

表紙をご覧ください。表紙の児童の作品がすばらしく、作った児童の声が裏表紙の黄色い枠内に書いてあります。

次に、教科書の大きさがA4判の変形型で、縦の大きさが約2センチ短いですが、ランドセルや児童用のデスクトレイの大きさに配慮し、使いやすい大きさとなるように考慮しております。

52ページから55ページをご覧ください。必要な材料や技能、安全かつ適切な用具の扱いを設けています。発想や構想を表現するための手立てとして活用できるようにしております。

24ページ、25ページをご覧ください。学習活動のめあて、安全面の「きをつけよう」「かたづけ」が掲載されており、活動の在り方が明確に記されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 「つくる」と「考える」が一体化しているということを具体的に教えてください。

○説明員 「つくる」と「考える」ことが一緒になって、創造することの楽しさや主体的な表現活動を進めていく、感性を働かせながら作り出す喜びを味わわせるということが、一体化という段階になると考えています。

○加藤由美委員 開隆堂で選択単元の説明がありましたが、今年度も選択単元をやられているのでしょうか。

○説明員 学年によっては、例えば絵であったり、工作であったり、学期ごとに多くのことができないので、どちらかを選ぶというような形で選択していると思います。

○高木宏幸教育長 今のことで言うと、日本文教出版は選択単元がない、開隆堂はあるということですが、あることとないことのそれぞれメリット、デメリットはありますか。

○説明員 教員は学習指導要領に準拠して取組をしていますが、教える過程の中で、多少は子どもの実態に合わせて選ぶことが可能であると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の調査研究の観点から「題材の設定」と文言が出ています。「題材の設定」というのは、この教科書はどのような題材が設定されているのでしょうか。例えば、開隆堂では「春を感じて」が題材なのか、主題なのか。日本文教出版は「心のもよう」という形で、ここでは自分の気持ちをいろいろな形や色で表すとあり、開隆堂は身近で感じることを見付けたり、各材料を選んだりして、表したいことを思いつくとあります。ある意味でねらいは同じかと思います。観点の「題材の設定」について、どのように理解すればいいのでしょうか。

○説明員 題材を設定するに当たっては、やはり地域や学校、また児童の実態等も考慮していく中で、子どもたちの思いや願いを引き出すような形で設定をしていきます。必ずしも教科書だけの設定ではなくて、そこには指導をする先生方の考え方も加味される場面も出てくるということになります。

○村田悦一教育長職務代理者 もちろん教科書を教えるのではなくて、教科書を使って教え

ていくことになります。その中で市内小学校がどのように題材を設定していくかは、今の話ですと、教科書があってもなくても、学校がそれぞれ子どもの実態で決めていくような形に受け取れてしまうと思うのですが、教科書とのつながりで「題材の設定」のことがよく分かりませんでした。

○説明員 「題材の設定」に関しては、やはり子どもの思い、願いを発意させるというところで、一つのヒントになる部分がありますので、教科書を使って、そこから実際に思い、願いを広げていくという発想もありますから、例えば春の季節であれば、春というものは一つ題材として提示されるものになりますし、そういう意味合いで説明を申し上げました。

○村田悦一教育長職務代理者 私が感じたことは、「春を感じて」を受けて描いていったほうが、「心のもよう」よりはイメージしやすいかと思いました。だから私は「題材の設定」という意味では開隆堂のほうが、この中でいろいろな色が出ていますので、学校の周りや外に出たときに見たもの、感じたものをということで、「題材の設定」が明確だと思いました。「心のもよう」は高度過ぎると思いましたが、このような理解でよろしいでしょうか。

○説明員 一つのヒントにはなりますが、図工に関しては、一律、同じものを作るのではなくて、子どもたちの思いが出てきますので、いろいろな表現方法の思いがあって当然となっています。そのための一つのヒントということなので、題材、提示の仕方の工夫が必要になります。

○高木宏幸教育長 草加市の児童の実態にあるように、子どもたちが主体的に取り組んで作り出す喜びを味わえる題材が想定できるような、そういう教科書作りが大事かと今の話を聞いていて思いました。

○説明員 開隆堂は教科書のサイズも大きいので、図版を大きく提示しており、子どもたちに主体的に考えさせる部分があります。日本文教出版は、図版を多く中に入れていて、子どもたちの意見や参考になる文章が多く、子どもたちに考えさせるという題材設定の方法をとっています。そこが相互の提示の仕方だと思います。

○加藤由美委員 3・4年生の下段になりますが、開隆堂は彫刻刀を使うときに、使うところに安全と書いてあって、日本文教出版にはそれが載っていないので、使うところに安全のことについて、使い方が書いてあったほうが良いと思いました。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校理科、生活、図画工作の教科用図書に係る採択に入ります。

これから投票用紙をお配りいたしますので、事務局で確認をお願いします。

お手元に投票用紙はございますでしょうか。記入をお願いしたいと思います。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱を確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 投票漏れはございませんか。

開票状況につきまして、小澤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 集計結果を発表いたします。

集計の結果、理科につきましては、東京書籍株式会社 1 票、大日本図書株式会社 1 票、教育出版株式会社 4 票でございますので、教育出版株式会社といたします。

生活につきましては、東京書籍株式会社 6 票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

図画工作につきましては、開隆堂出版株式会社が 6 票でございますので、開隆堂出版株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、午後 2 時 20 分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開いたします。

- 高木宏幸教育長 次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 家庭

- 高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。
- 説明員 それでは、家庭科の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、本市の児童の実態についてでございますが、家庭生活に関して、児童は調理や裁縫などの実習は大好きで、大変意欲的に取り組んでおります。そのため、家庭科の学習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることはできています。しかし、習得した知識や技能を、家族の一員としての自覚をもち生活の中で活用していこうという姿はあまり見られません。また、実習の際は活動に夢中になってしまい、安全面への意識が薄くなってしまう姿が見られます。衛生面に関しての意識も薄く、多少のことは大丈夫であろうという姿が見られます。

そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、家庭科における観点を次の２点といたしました。１点は「安全や衛生への配慮」、もう１点は「家庭生活への関心」でございます。

それでは、各発行者の特色、特徴などについてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。基礎的・基本的な知識や技能の習得につきましては、まず、教科書４ページ、５ページをご覧ください。この教科書の特徴である３ステップでの学習過程が示されています。１で課題を見付けさせ、２で課題解決に向け計画し、実習などを通して知識・技能の習得を図り、３でまとめて活用できるようにする構成となっております。このような３ステップの学習過程によって問題解決的な学習を進めることができ、基礎的・基本的な知識や技能が着実に身に付けられるように工夫されています。

次に、１４、１５ページをご覧ください。やわらかい色彩の写真、そして多くのイラストを用いて実習への意欲付けを図り、基礎的・基本的な知識や技能が着実に身に付けられるように工夫されています。１５ページの中段、左をご覧ください。本市の観点である「安全や衛生への配慮」につきましては、このようにピンクの安全マークと囲み枠を用いて注意を喚起しています。上段には包丁とまな板の使い方が載っていますが、そこにリンクマークを付けて、１１４、１１５ページを見るように提示し、調理実習において安全についての意識が高まるように工夫されています。

続いて、８１ページをご覧ください。学習したことを自主的に家庭で実践できるように自由研究コーナーが設けられていて、学習したことを活用し、生活を見詰め直すことによって「家庭生活への関心」を高め、家庭生活を大切に作る心情を育もうとしています。

次に、４０、４１ページの下段をご覧ください。このように、調べた結果や自分の考えを記入できるワークシートを多く設けていることが特徴の一つとなっています。

次に、開隆堂についてご説明いたします。基礎的・基本的な知識や技能の習得につきましては、まず、教科書巻頭見開きページの表と裏をご覧ください。５年生から６年生と２年間の学習が系統的・発展的に見通しをもって学習できるように示され、目次にございますように題材も細かく構成され、ページ右下には内容ごとに色分けされた爪見出しが付けられています。

１８ページから２０ページをご覧ください。「話し合おう」「調べよう」「考えよう」と課題を投げかけ、課題解決的な学習を通して児童に主体的な学びを促し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように工夫しています。

さらに、１２ページ、１３ページをご覧ください。はっきりとした色彩の写真を多く用いて実習への意欲付けを図るとともに、見通しをもって学習を進めることができるようにし、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように工夫されております。本市の観点である「安全や衛生への配慮」については、巻頭見開きに「安全に学習をすすめるために」があり、安全な学習の必要性を児童に強く印象付け、注意喚起しております。

また、１２、１３ページの下段にあるように、安全面に関しては安全マークを付け、丁寧に説明されており、安全に関して強く意識させています。１１ページの上段には手の洗い方が載っていますが、衛生についても配慮され、意識させています。

続いて、８６、８７ページをご覧ください。このように豊富な実習例のチャレンジコーナーが設けられていて、学習したことを活用させることを通して家族の一員としての意識を高め、家庭生活を大切に作る心情を育もうとしています。

最後に、現在の学校での使用実績でございますが、冒頭の２ページで２年間の学習の見通しがもて、各单元では、例えば１１ページに示されていますように、振り返りまでするようになっています。また、例えば４８、４９ページにございますように、実習や観察の場面では分かりやすい豊富な実物写真資料をもとに、子どもたちは主体的に取り組むことができます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 現行の教科書は、安全についての配慮が分かりやすく書かれていると思いますが、草加市の実態として安全面への意識が薄くなってしまっているというお話がありました。観点としても「安全や衛生への配慮」ということですが、教科書にこれだけ書かれていても怠ってしまうということの問題点はどのようにお考えですか。

○説明員 安全面について、実習前に教科書を用いて学習しておりますが、実習の際には、教科書等をしまつての実習になってしまい、子どもたちの様子を見ていますと、実習に夢中になってしまうと包丁の置き場所や火の取扱いにやや注意が欠ける場合がございます。

○宇田川久美子委員 飽食の時代と言われ、作ることに興味をもつことはとても良いことだと思いますが、今は小学生でも生活習慣病などが問題になっています。子どもたちがそういった部分で教科書の中で示しているようなこと、例えば塩分のことなど、そういう難しいことは書かれていませんか。

○説明員 塩分等についてはありませんが、アレルギーのこともありますので、卵アレルギーの場合には、例えばジャガイモの調理をしましょうといったことは載っております。

○村田悦一教育長職務代理者 家庭科は、以前から男子、女子と一緒にやっていますが、配慮といったものは何かありますか。もしくは、一人の人間として家庭生活ということで授業をしているのか、男女差への配慮は何かありますか。

○説明員 児童の実態といたしましては、男の子だから不得手とか、女子だから得手ではなくて、一人ひとりによるので、男子でも例えば調理が得意な子、裁縫が得意な子もおりますので、男女の別などの意識はなく、教科書を用いて教えております。

○高木宏幸教育長 子どもたちの実態として、家庭科で得た知識、技能を家族の一員として生活の中で活用していく力が弱いということがあります。それぞれ2者の教科書にも自由研究コーナーやチャレンジコーナーを設けていますが、実際に授業の中では、このコーナーをどのように活用して、子どもたちの活用面の指導をしているのでしょうか。

○説明員 それぞれの単元後に、このチャレンジコーナーを用いて、発展、活用ということで紹介をしているところでございますが、実際に活用しているのは数としては少ないので課題として挙げさせていただきました。

○高木宏幸教育長 そういったコーナーを、実際授業の中ではこのようにいかして、子どもたちに指導しているという例はありますか。

○説明員 現在は夏季休業中ですので、お休みのときに家で調理やお手伝いをしたり、チャレンジコーナー、自由研究のコーナーにも載っているので、それを実践するようにと学年だよりなどで訴えているところでございます。

○宇田川久美子委員 お裁縫などの単元もありますし、ミシンを使ってみようという単元もありますが、今は、例えば幼稚園のレッスンバックみたいなものでも外注してしまうご家庭も多いように思います。そこでまず一つ、ミシンをお持ちのご家庭はどれくらいあるのでしょうか。

○説明員 正確に調査をしておりませんので、把握できておりません。

○宇田川久美子委員 分かりました。ミシンを習ったところで、その場では踏めるかもしれませんが、ご家庭にミシンがなければ使えないままで終わってしまいます。ミシンに限らず、手縫いにしても、ご家庭に働きかけるような、お母さんも一緒にやりましょうみたいな働きかけが必要かと思います。

○説明員 ご家族と一緒にというのはございませんが、子どもたちはミシンよりも、手縫いに関しては、ボタンが取れたときに、男の子でも自分で裁縫セットを使う姿も見えるので、やはり学習する意義はあると思います。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

小学校 保健

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、保健の教科書についてご説明を申し上げます。

まず、草加市の児童の実態でございますが、埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査や、草加市立小中学校体力向上推進委員会での調査において、朝食を食べない児童がいることや、日常的な運動経験の差による体力の二極化の問題が分かっております。

また、児童の生活環境の実態から児童や保護者の危機管理意識も高まっておりますが、依然として交通事故や不審者被害も多く発生しており、生活習慣の確立と実生活における健康で安全な生活を営む資質や能力の基礎を培うことが課題であると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、保健においては、生活習慣の確立と実生活における健康的な生活を営む資質や能力の基礎を培うことが必要なことから、「身近な生活における健康安全」といたしました。

各発行者の特色、特徴についてご説明申し上げます。各発行者の第3・4学年のものを例にとってご説明させていただきます。

東京書籍「新編 新しい保健」につきましては、初めに教科書の6ページをご覧ください。児童が主体的に学習に取り組めるように「学習の課題」、「学習の仕方」、「活用して深めよう」などの流れで学習の仕方がはっきりと示されております。また、生活場面を振り返り、検証したり、事例について考えたりする活動や、自分の考えを実践に結び付けるために書き込む欄を配置して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る構成になっております。

次に、4、5ページをご覧ください。「話し合ってみよう」「考えてみよう」が配置され、学習したことをもとに考えて、実生活について検証したりする活動を通して、自分の考えを深めることができる構成になっております。

次に、大日本図書「たのしい保健」につきましては、教科書の2、3ページをご覧ください。各章の導入に学習をナビゲートするゲームを提示し、児童がその学習への興味・関心を高められるよう工夫されております。

次に、4、5ページをご覧ください。1単位時間の学習内容が課題把握・発見、思考・判断・表現活動、まとめ、活用という学習の流れで構成され、学習内容を習得し、課題解決のための思考・判断・表現力の育成を図る構成になっております。「やってみよう」「話し合ってみよう」などの活動場面が授業の流れの中に設定され、児童の思考や判断の活動を促し、問題解決へ向かうことができるよう工夫されております。課題を解決し、学習内容を理解するためのまとめは、簡潔で分かりやすい本文やキャラクターの言葉で示し、児童が学習内容の理解と定着を図れるように配置されたものとなっております。

次に、9ページをご覧ください。単元の終わりには児童が学習し理解したことを自らの生活の中で実践するために書き込み形式の活用を設けております。

次に、文教社「わたしたちの保健」につきましては、教科書の4、5ページをご覧ください。各単元の冒頭では、毎時間学習内容に応じた作業や資料を取り入れ、児童が学習の見通しをもつとともに、意欲的に学習に取り組めるよう構成されております。また、子どものキャラクターが学習の手助けをしたり、学習に親しみをもたせたりし、大人のキャラクターが専門的な立場から児童の考えや調べでは気付きにくいことを提示し、内容を理解する手助けとなるよう工夫されております。学習のまとめとして黄色いテキストボックスで示されたり、重要な語句が太字で記載されたり等、基礎的・基本的な内容が理解できるように工夫されております。

次に、１１ページをご覧ください。学習のまとめとして、各単元の終わりに「これからの自分へ」として記入欄を設け、実践への意欲付けを図るよう工夫されております。

次に、１９ページをご覧ください。「発展」のコーナーが設けられ、様々な資料や身近な生活に関連する事項、事例を踏まえた対応の仕方などが掲載されております。

次に、光文書院「小学保健」につきましては、教科書の６ページをご覧ください。生活場面から課題を見付け、実践的に学習内容が理解できるように工夫されております。習得、活用の流れで学習活動が構成され、子どものキャラクターや専門的な立場から助言する先生のキャラクターが学習活動を手助けし、課題の把握や改善の仕方などを主体的に学習できるように配慮されたものとなっております。本文が簡潔に整理され、大切な言葉は太字や書体を変えて示されており、知識を確実に習得できるよう工夫されております。

次に、８、９ページをご覧ください。児童が主体的に健康・安全について理解を深める工夫として、脚注に知っておくための情報やホームページアドレスが掲載されております。また、自分の考えを記入したり、生活をチェックして自分の生活を振り返ったり、学習活動ごとに合わせた様々なマークが工夫され、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されております。

最後に、現在使用されている学研教育みらい「新・みんなの保健」につきましては、教科書の４、５ページをご覧ください。毎時間の冒頭で学習課題を明示し、生活場面から課題を見つけ、実践的に基礎的・基本的な内容が理解できるように学習の流れが課題、活動、そして活用で構成されており、児童が主体的に学習し、学習内容を主体的に習得できるよう工夫されております。各時間末に活用を設け、習得した知識を活用して課題に取り組むことを通して、生活実践に結び付く力を育てるとともに、思考力・判断力・表現力等を育てるよう配慮されたものとなっております。

次に、８ページをご覧ください。「もっと知りたい・調べたい」の中で実践に結び付く力を育てるとともに、自分のこととして受け止めるための学習の振り返りや生活にいかすための記入欄を設け、児童が健康で安全な生活を送る資質や能力を育成するための工夫がなされております。

次に、１６ページをご覧ください。学習のまとめとして、学習内容を自己評価しながら学習内容の習得を確認できるよう配慮されたものとなっております。

なお、使用している先生方からは、１時間の学習内容が見開き１ページで示されて取り扱いやすいことや、イラストや絵・写真が適切に使い分けられていて分かりやすいといったご

意見もいただいております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 草加市の実態で生活習慣の確立、実生活における健康的な生活を営む資質や能力の基礎を養うことが課題ということで、先ほど家庭科でもお聞きしたのですが、まさに生活習慣を正すことが生活習慣病の予防にもつながっていきます。そこで、二つお聞きしたいことがあります。一つは、そのことに即して分かりやすく系統立てている、特色がある教科書はあるのかということ。もう一つは、そのことが乱れたことによって生活習慣病に移行してしまうというような、メタボリックシンドロームなどの記載はありますか。

○説明員 生活習慣ですが、これは3・4年生で扱います。特に、毎日を健康に過ごす、健康の大切さというところで、3・4年生から食事・運動・休養・睡眠で取り扱っているものがございます。これは各発行者で扱っております。また、生活習慣病に伴うメタボリック等につきましては、5・6年の健康な生活で扱っている発行者、また、発展学習で扱っている発行者があります。

○小澤尚久委員 草加の子どもたちが教科書で学び、それを実生活に活用していく、実践していくということから考えて、特に、この中で子どもたちが実践しやすい、気持ちも高まりやすい効果的な部分があらういくつか挙げてください。

○説明員 一つお話ししたいと思います。草加市の児童の実態といたしまして、依然として交通事故が多く発生していることが挙げられます。特に、5・6年教科書の交通事故の防止のページに触れながらご説明したいと思います。

まず初めに、東京書籍でございますが、18、19ページをご覧くださいと思います。ここには、二つの生活場面から潜んでいる危険と対策について、考えたことを書き込めるような構成になっております。また、交通事故防止のための安全な行動について示されているところでございます。

次に、大日本図書でございます。22、23ページをご覧くださいと思いますが、これも二つの生活場面の絵から、どのような危険があるのか、そして、行動の仕方について考えたことを書き込めるような構成になっております。また、自転車の安全な乗り方ということで、資料として扱っていることが分かると思います。

続きまして、文教社です。16、17ページをご覧くださいと思いますが、ここには

交通事故に遭いそうになった経験を書き込めるようになっております。また、交通事故を防ぐための取組を調べるための資料ということで、右のほうに記載があるかと思います。

続きまして、光文書院です。１８、１９ページをご覧くださいと思いますが、ここも生活場面の絵から危険の予測と安全な行動について、まず考えたことを書き込めるようになっております。また、下のほうに自転車の点検・整備、そして乗るときのマナーについても書かれています。

最後に、学研教育みらいです。１８ページ、１９ページをご覧ください。ここも生活場面の絵について、どんな危険が隠れているのかについて考える学習がございます。また、交通事故を防ぐための工夫や努力を話し合う活動のための身近な資料が豊富に載っております。子どもたちにとって身近な資料になっているかと思います。

○小澤尚久委員 ありがとうございます。この中で、草加の子どもたちに、どれも工夫されていると思いますが、活動なども含めて実際に書くのが良いのか、調べてみましょうと投げかけるのが良いのか、途中でステップを踏んでから何か書き込むのが良いのか。ここが工夫されていると、特にピックアップできるものがありましたら教えていただければと思います。

○説明員 特に共通しているのが、その場面から自分がどう危険を察知して、どう予防していくかということだと思います。そこから実践力につなげることが最終的なものですので、自分の身に置き換えて、どう実践していくかが主とするところかと思います。差というところでは、あまりないかと思います。

○宇田川久美子委員 保健の教科書もサイズがかなり違うように思います。例えば大日本図書は小さいですが、４８ページで終わっていて、学研みらいはこんなに大きくて、５３ページまであります。子どもたちが使用するというのを考えたときに、それぞれの利点や良くない点が見受けられたら教えてください。

○説明員 本の大きさにつきましては、発行者の方針だと思いますので、こちらとしては分かりかねるところです。ただ、子どもたちにとっては、Ａ４の大きさが親しみやすいかと思いますが、小さいものについては、小さいなりに良い点があると思っております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほどの家庭科、そして保健ですけれども、健康・安全な生活というと、かなり共通面があると思います。家庭科でも安全等には触れますが、保健は実際にいろいろな問題や事故が起こります。東京書籍だけが両方とも出していますが、具体的に言えば、家庭科と保健で何かつながりをもって書かれているところ、意図しているところはありますか。あるいは保健は保健で、食べ物などの健康・安全面の関係はあまり考慮され

ていないのでしょうか。保健と家庭科のつながりで、保健面から見て何か分かることがあれば教えてください。

○説明員 家庭科とのつながりでございますが、健康な生活を営むという点で家庭科は食生活の部分に触れています。保健分野でも、一日の生活の健康状態などを考えると、食生活の部分もリンクされるかと思います。それから、家庭科のところにもあったと思いますが、心の動きということが家族の部分で入ってくるかと思います。ここでも、健康状態を保つということは、食生活、運動、睡眠、休養、プラス心ということがあるので、保健の場合には心の健康ということも扱っているところになるかと思います。

○加藤由美委員 この場を借りてお聞きしますが、どの教科書にも思春期に表れる変化ということで、思春期には心の変化があり、異性のことが気になったりとどの教科書も載っていますが、授業の中で、ＬＧＢＴについて何か触れたりすることはあるのでしょうか。

○説明員 授業の中で積極的にＬＧＢＴを具体的に扱うということはないかと思いますが、世の中の流れということで、少し扱うことになるのかと思います。教科書には具体的には記載されていないと思います。

○高木宏幸教育長 先ほど、学習内容として交通事故防止の観点からそれぞれの教科書会社の構成の説明があったと思いますが、子どもたちがより主体的にそのことを課題として受け止めて、実践に結び付けるといようなことを考えると、この編集内容としては、単元の扱い方として主体的な学習の展開を考えたときにはいかがでしょうか。

○説明員 草加市で使っていない表記が資料として入っていたりということが一部あります。ただ、やはり子どもたちにとって交通事故は身近な資料で使えることが一番いいかと思います。そういう資料が多く載っている教科書は子どもたちにとって身近であり、即実践に結び付くような資料が載っている発行者もございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次の教科の選定資料の報告に入らせていただきます。

中学校 道徳科

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、道徳科の教科書についてご説明いたします。

初めに、草加市の子どもの実態についてご説明いたします。近年は生徒のスマートフォンの所有率が高く、それに伴ってＳＮＳ上での生徒間のトラブルが数多く発生しております。

メールを送信する際に何げない一言で相手を傷付けたり、また、いたずらに画像をアップして相手に嫌な思いをさせるような事案が報告されております。自分の行為が相手にどんな思いをさせるのか、どんな気持ちにさせるのか、その想像力が不十分ではないかと思われます。

そこで、いじめの防止や情報モラルという視点にとどまらず、その考え方の根源となるいのちの大切さ、生命の尊重を実感できるかどうかという視点を盛り込み、調査研究資料を作成した次第です。

それでは、道徳科の教科書の主な特徴についてご説明いたします。

まず、全ての発行者に共通している内容について、3点ご説明いたします。

初めに、1点目です。学習指導要領で示されました内容項目四つの視点をマークで明示し、各教材がどの視点に対応しているのかが分かるように工夫されております。マークは各発行者によって異なりますが、全ての発行者が対応しております。この四つの視点とは、A、主として自分自身に関わること、B、主として人との関わりに関すること、C、主として集団や社会との関わりに関すること、D、主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することです。

次に、2点目です。道徳の学習を進めるためのオリエンテーションが巻頭に示されております。ここでは、道徳科とはどのような学習をするのか、どのように学習を進めていくかなど、分かりやすく説明されております。八つの発行者は、ともに全学年巻頭に記載されておりますが、内容は発行者によって多少異なります。

最後に、3点目です。今回の学習指導要領では、「考え、議論する道徳」というキーワードが示されています。各発行者とも考え、議論するための工夫がなされており、特に全ての教材の最後に、内容に関する発問をいくつか提示しております。その発問の数や内容は各発行者によって工夫がされております。

それでは、続きまして、各発行者の主な特徴につきまして、1年生の教科書を参考にしてご説明いたします。

初めに、東京書籍でございますが、最初の目次をご覧ください。上段に薄いピンクとグリーンで示したところがございます。東京書籍は、このいじめの問題と生命尊重の問題に関しては、ピンク色とグリーンの色で示しておりまして、それぞれ3教材をまとめたユニット構成になっております。「いじめのない世界へ」、そして「いのちを考える」を全学年で設け、それぞれの中で三つの教材を掲載し、一つのテーマについて、多面的・多角的に考えられるように工夫しております。

具体的にいじめ問題についてご説明いたします。24ページをご覧ください。このユニット化によって最初のとびらのページ、間接的教材、直接的教材の三つの教材に分けられており、多様な道徳的価値に気付き、考えさせたりすることができるように工夫されております。ご覧の24ページでは、「いじめに当たるのはどれだろう」というタイトルで1枚の絵を示し、多様ないじめの経過について考えるきっかけをつくります。それに続く27ページ、次の間接的教材では、傍観者の立場の教材を扱い、いじめの四層構造を念頭に、いじめ問題を様々な立場から考えられるように工夫されております。そして、最後に30ページ、直接的な教材では、主人公が友達をいじめている側に立ちつつも苦悩する気持ちをストレートに表現し、いじめをしない、許さない心を育むような工夫がされております。同じように、生命尊重の場合もユニット化しております。このようにユニット形式にすることで、一つのテーマについて深く考えさせられるように工夫がされております。

94ページをご覧ください。全学年で役割演技を主体としたアクションというコラムを2か所ずつ掲載し、役割演技や体験活動を通して議論する教材を設定しています。実際に当事者として体験することで、道徳の問題を自分のこととして考えることができる工夫がされております。

続きまして、学校図書でございます。6ページをご覧ください。全ての教材名の前に主題名が書いてあり、教材を読む前に課題に向かう姿勢や問題意識がもてるように工夫されております。ここでは「誰も知らない」という教材の主題は差別や偏見のない社会であることが分かります。

また、6ページ、右下にございます「共に生きる」というマークが付いておりますが、これは発問からだけではなく、深く考えてもらいたい重要な現代的な課題として提示されております。このマークは全部で10種類ありまして、いじめ防止、身の安全など、1ページにこの10種類がまとめられております。

13ページをご覧ください。教材の最後には、発問コーナーの「学びに向かうために」が設定されております。課題を発見し、主体的な学びを導く発問が用意されており、授業のねらいがぶれないように工夫されております。また、意見交換を通して多様な考え方に触れ、生き方についての考えを深められるようになっております。

19ページをご覧ください。本文教材の他に22の内容項目に対応するページとして、「心のとびら」が掲載されております。ここでは道徳的価値観を深めたり、多面的・多角的な物の見方や考え方を促す工夫がされております。

最後に、80ページをご覧ください。学びの記録として教材ごとに書き込みスペースを設け、思ったことや感じたことを記録できるようになっております。生徒が学期ごとの学習後に自分自身の行動や気持ちの変化を振り返って確かめることができ、自己を見詰め、明日からの自分にいかそうとする意欲を育てる工夫がされております。

続きまして、教育出版でございます。3ページをご覧ください。本教科書は、「生命の尊さを考える」、「いじめや差別のない社会に」、「情報とよりよくつき合う」、この三つのテーマを重視し、発達段階を考慮しながら、3学年を通して深く考えていく工夫がなされております。例えば、「生命の尊さを考える」では1年生に四つ、2年生に二つ、3年生に三つの教材が掲載されております。

6ページをご覧ください。各教材の冒頭には導入の文章を設け、学習のねらいを明確にして見通しをもって授業に取り組めるよう工夫されております。学級全体で学習テーマを共有することで、対話的な学びを深めることにもつながります。

11ページをご覧ください。教材の末尾には「学びの道しるべ」を設け、教材理解だけでなく、物事を自分に引きつけて考えたり、多面的・多角的に考えたりする際の助けとなる発問が示されております。

86ページをご覧ください。この「けやき中を誇りに」という中学校を舞台にした教材のシリーズは、2年生でも3年生でも掲載されており、このシリーズを3年間通して掲載することで、主人公の気持ちや行動を通して生徒自身が自分を見詰め、成長できるように工夫がされております。

最後に、小学校とのギャップを解消するために、1年生の前半の教材につきましては、本文の字を大きくするとともに、行間も広がっているのが特徴でございます。

続いて、光村図書でございます。2ページの目次をご覧ください。学校生活の実態と、それに伴う生徒の成長を考慮して、1年間の学習を四つのシーズンに分け、内容、項目間の関連を意識した配列になっております。そして、シーズンの中では、テーマをもったいくつかのユニットに分かれております。それは各教材のページ数下の下線部分に示しております。例えばシーズン3のテーマ「広い視野で」の中の二つ目のユニットテーマである「社会との関わりを考える」では、17番「やっぱり樹里は」という教材から、21番「なおしもん」という教材をユニット化し、公正・公平な考え方について学んだ上で、社会を構成する一員として社会に参画し、勤労することの価値を理解して、その中で法の決まりを守る心、そして、郷土を愛する心について考えを深めていくという学びの流れになっております。

11ページをご覧ください。教材を最後に学びのテーマを設け、生徒が教材を通して何を学ぶのか、めあてをはっきりと意識できるよう工夫されております。「考える視点」では、学びのテーマに迫るため、一つ目に道徳的な問題を明らかにする問い、二つ目に道徳的な価値について理解や自覚を深める問い、三つ目に自分に引き付ける問いが掲載されております。

「見方を変えて」では、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるよう工夫がされております。また、「つなげよう」では、該当の内容項目での学びを更に深められるように工夫され、「私の気づき」では、授業で学んだことを書きとめ、生徒が振り返る際には自身の原因を実感できるようになっております。

最後に、224ページをご覧ください。全学年を通して、特に生命を大切にする心の教育に重点が置かれ、生命の尊さに関する教材をどの学年にも三つずつ掲載されております。発達段階に即して誕生の喜びや臓器移植など、様々な観点から命について学びを深めることができるよう工夫されております。

続きまして、日本文教出版でございます。別冊として「道徳ノート」が附属されております。このノートは各教材に対応しておりまして、ワークシートとして活用することができます。ノートの中ほどに友達の意見を記入する欄が設けられ、多面的・多角的に考えられるよう工夫されております。また、評価する際の資料としても活用できます。

教科書の6ページをご覧ください。題材名の上には主題名が掲載され、この教材で何を考えるかが明確になり、生徒が見通しをもって学習できるよう配慮されております。また、題材名の下には主な登場人物を掲載することで情報を整理し、議論の時間を確保できるよう工夫されております。

10ページをご覧ください。「考えてみよう」では、考え、議論し、ねらいに迫るための考える価値のある発問例が掲載されております。また、「自分にプラスワン」では、自分を客観的に振り返り、学んだことを前向きにいかすための発問例が掲載されており、対話的な学びを促す工夫がされております。

少し戻りますが、4ページの上段をご覧ください。ご覧のとおり、いじめ防止に関する教材が充実していることがお分かりかと思えます。それぞれの教材はプラットフォームというコラムと組み合わせることはいじめ防止の内容を集中的に扱い、確実な定着が図られるよう工夫されております。また、働くことの意義についての教材も充実しており、具体的な職業を挙げた教材についても多く扱っており、キャリア教育の内容を重視した配慮がされております。

最後に、26ページをご覧ください。「学習の進め方」という特設ページでは、問題解決のための話し合いや、1時間で無理なく実施できる体験学習の方法を写真やイラスト入りで分かりやすく示しています。

続きまして、学研教育みらいでございます。8ページをご覧ください。各学年ともに「生命の尊重」、「いじめの防止」を重点テーマとしております。生命の尊さ、そのものを題材にした教材だけでなく、様々な内容項目を通して、命について考える機会を設けています。また、いじめ防止に関する教材につきましては、様々な観点からいじめを考える教材が多数掲載されており、全学年にわたって生命尊重やいじめに関する特設ページが設けられております。

10ページをご覧ください。主題名については、あえて冒頭に掲載しないことで生徒に特定の価値観を押し付けることなく、生徒が問題意識を大切にして主体的に学びを展開できるよう工夫されております。また、全ての教材が見開きから展開できるようになっております。

14ページをご覧ください。教材の最後に示している発問例ですが、少なくしていることが特色です。あえて発問例を少なくすることで、生徒が自ら問題意識をもち、どんな発問を考えればねらいに迫っていくことできるのか、それを考え、議論することも大切にするという工夫が見られます。教科書の大きさはA4判サイズと大きく、挿絵や写真、図などが大きく掲載されており、学習上の効果が得られるように工夫されております。

最後に、15ページをご覧ください。特設ページであるクローズアップ、さらにはクローズアッププラスというページを掲載し、関連情報を提示することで生きる上での考え方の選択肢を増やす工夫がされております。

また、他には「深めよう」という特設ページが設けられております。この「深めよう」では、道徳的行為に関する体験的な学習を役割演技などを通して具体的に考えることができ、設問については生徒が主体的に考えを広げ、深められるようになっております。

続きまして、廣済堂あかつきでございます。別冊として「中学生の道徳ノート」が附属されており、内容といたしましては、最初の目次でございますように、教材の順番ではなく、内容項目に準じた配列となっているのが特徴です。また、巻末にございます自己評価などで扱うこともできる「心のしおり」など、適切な機会に別冊を活用することで、生徒の道徳的諸価値の理解や道徳的思考をより効果的に促すことができるようになっております。記述から生徒の心の状態や成長を見て取ることができ、その後の指導や評価にいかすこともできるようになっております。

では、教科書の５ページをご覧ください。教材の最後に、「考える、話し合う」を掲載し、生徒が自ら課題意識や問題追求への意欲を高め、主体的・対話的に学習に取り組むことができるような工夫がされております。学習のめあてと問いで構成された学習の手がかりによって、生徒が明確な課題をもって主体的に学習に取り組めるようになっております。

また、「考えを広げる、深める」では、生徒が自分との関わりで考え、自己の体験を想起したりして考える問いや、物事を多面的・多角的に捉えるきっかけとなる問いなど、より充実した学習ができるように構成されております。また、教材の最後にある葉っぱのマークにあるように、先人や著名人、魅力ある人物の言葉が合わせて掲載されており、教材と合わせて活用することができ、生徒の思考を深める工夫がされております。

２４ページをご覧ください。これは幼なじみの真一と夏樹が主人公となり、学校生活で起きる様々な出来事を友情や信頼、進路選択に焦点を当て、発達段階に即して３学年までのシリーズで掲載していることも特徴です。

最後になります、日本教科書でございます。最初の目次をご覧ください。各教材が内容項目ごとに順番にまとめられており、また、各教材の番号は、学習指導要領の内容項目のものと対応したものが掲載されております。学校、生徒の実態に合わせて教材を選択できる工夫が左です。この目次の内容項目の８番、友情と信頼にありますリョウとマキという教材ですが、これは６０ページをご覧ください。こちらのリョウとマキという教材は３年間シリーズ化されており、主人公の成長とともに連続性のある内容として掲載されており、３年間を通して学べる工夫がされております。さらに、このリョウとマキという教材ですが、現場の教員が執筆したオリジナル教材で、家族や友達、学校を題材とした教材が豊富に掲載されているのが特徴です。生徒が興味・関心をもって授業に臨むことができる工夫が見られます。

そして、６５ページの各教材の最後には、考え、話し合ってみよう。そして、深めようが掲載され、自己を見詰め、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、生徒の思考を促すような問いが提示されております。

８３ページをご覧ください。こちらの教材のように本文をオープンエンドにしている教材が多く掲載されており、生徒が自然とその後の展開を考え出す仕掛けが工夫されております。

最後に、９８ページをご覧ください。こちらはスマートフォンのＬＩＮＥの画面をそのまま掲載したインターネットコミュニケーションについての教材を扱い、現代の生徒を取り巻く人間関係が多様化した社会に対応したものとなっております。生徒が自分のこととしてとらえ、話し合うことができるように工夫されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 2点あります。1点は、別冊ノートを作っている発行者がいくつかありますが、ワークシートのように使うと、答えが画一化されることが懸念されますが、そのことについてはいかがでしょうか。

もう1点は、自己評価欄を設けている発行者がいくつかありますが、道德という観点から考えて、自己評価が成績と関連してくるということはあるのでしょうか。

○説明員 1点目の別冊ノートについてでございます。別冊ノートを添付している発行者は2者でございます。それぞれ2者共に別冊ノートの特徴はありますが、ワークシートで生徒が自分で考えたことや自分の考えを友達と意見交換し、それに書くことによって、決して答えが画一化されるということはありません。あくまでも道德は、教材を通して、その教材の登場人物の気持ちをまずは個人で考えさせます。その個人で考えたことを友達同士で意見交換して、こんな意見もあるんだということを知ることが道德の授業の大切なところだと思いますので、ワークシートはそういった意味では、話合いのことをメモできる、記録できるノートとして活用できるものと考えております。

また、自己評価についてございますが、新学習指導要領では、評価をするということになっております。この評価につきましては、記述で評価をするということになっており、生徒が授業を通して、何をどう考えたのかということ記録にとどめることがとても大切であり、また、教員はそれを通して、生徒の内面を知ることでもあると思います。そういった意味では、成績というよりも、生徒が授業を通して、道德的な価値にどこまで近付けたのかということをはかる一つの目安になるかと思えます。

○加藤由美委員 道德のノートについてお聞きしたいのですが、ノートはあるのでしょうか。

○説明員 教科書と一緒にノートを添付しているのは2者でございまして、それ以外の発行者は、ノートは特に用意しておりません。

教員は、ノートが付いていなければ、自分でワークシートを作るなどして生徒に考えを書かせる、友達の意見を書かせる、そういった工夫を授業の中でしていきます。

○加藤由美委員 教科書に書き込むところもたくさんありますが、そこに書き込んだりもするのでしょうか。

○説明員 それももちろんできると思います。

- 加藤由美委員 そうすると、ノートは特に作っていないということですか。
- 説明員 ノートをあえて作っているのは2者だけで、他の発行者は教員の裁量に任せる、あるいはオリジナルのノートを作る、ワークプリントを作る、または教科書に書き込ませる。実際に、教科書に書き込んでもらうように工夫をしている発行者もごさいます。
- 宇田川久美子委員 今、学研のお話が出ましたが、先ほどの説明で、学研の教科書がA4判の教科書で大きくて見やすいという説明がありました。小学生に対してはすごく当てはまることかと思ったのですが、中学生に対しても、大きい方がもちろん見やすいですけど、その他に大きいほうが良いという部分はあるですか。
- 説明員 1年生から3年生まで発達段階がまた変わってきますので、一概に、大きいことで、確かに写真や図が大きく掲載されるメリットはありますが、それが全て生徒にとってメリットとなるのかどうかは、私には分かりません。ただ、余白はかなりあります。
- 宇田川久美子委員 忘れてしまったのでお聞きしたいのですが、他の教科で、今、現行で使っている教科書で、A4判の大きさを使っているものはありますか。
- 説明員 他教科までは、分からないのですが、A4は多くなかったと思います。
- 宇田川久美子委員 何となく中学生となると、小さいイメージがあります。
- 説明員 はい。A3判といいますか、様々なサイズの教科書がごさいます。
- 村田悦一教育長職務代理者 今回、道徳の教科化で、先ほど共通している三つ目が「考え、議論する道徳」ということでご説明がありましたが、各発行者の今の説明を聞くと重たいというか、今、題材数を調べたら、ほとんどが35でしたが、日本教科書は22ですね。そうすると、例えば他の発行者は、一つの題材を1時間、50分で扱っていくということで理解してよろしいわけですか。
- 説明員 学習指導要領の中で示された内容項目が22項目あります。勤労奉仕や思いやりなどがございまして、道徳の1年間の学習時間は35時間ですので、そうすると、22の内容項目のうち、一つの内容項目で2時間ぐらい扱っている内容項目もあるということになります。ただ、22の内容項目は全て扱いますが、教科書会社によっては、一つの内容項目を2時間で扱っているところもあるということです。基本的には22全部網羅してやります。
- 村田悦一教育長職務代理者 例えば日本教科書が22項目となっているのは、特定の項目を2時間でやり、35時間で全項目を学ぶといったことが決まっているのでしょうか。他の発行者は35項目で教科書ができていますから、内容的には、基本的に項目は1時間で1題材ずつ行っていくという理解でよろしいのでしょうか。それとも、学校によると、35の中

で選択をしてやらない題材もあるのでしょうか。1時間でこの内容の授業を行っていくのは、重たいと先ほども言いましたが、内容的についていけない生徒も出てくるのではないのでしょうか。国語の読み取りのなところや考えを深くしていくということもありますので、国語力がないと難しい部分があると思います。そういう意味では、草加の生徒の実態から考えるとどうなのかと、総数的な時間と、実際に50分でそれを考え、議論して深めていくということがかなり私は重たいというか、大変かと思いました。

○説明員 今回、草加の子どもたちの実態を踏まえた上では、「生命の尊重」ということを一つの研究の柱にして行ってきたわけですが、発行者の中では、いじめと生命の尊重、そして情報がどの発行者も比較的重要視されていて、教材の数も多くございます。さらに、いじめや生命など、どうやってそこを深く学ばせるかという工夫をしています。例えば、最初にご説明いたしました東京書籍などは、ユニット化といって生命の尊重については三つの教材を連続して様々な視点から子どもたちに示して考える工夫をしていたり、あるいは学研では様々な視点からいのちの大切さ、生命の尊重を考えるような教材をあえて選んで工夫をしています。それぞれ発行者によって工夫の仕方は若干異なりますけれども、そういった発行者の特徴を見ていただければと思います。確かに重いというイメージは私も感じることはありますが、いじめや生命といった問題を考えていくと、やはり重たい内容になってしまうのかと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 私がはっきり聞きたいのは、この8者、それぞれの教科書になっても、草加の子どもたちはそれを十分使いこなしていく生徒であり、使いこなしていく先生方であるのかということです。理想を追い過ぎていて、これを50分の中で考え、議論を深めていくには、少し実態としては無理があると思います。そういうところをもし感じているのであれば、どこでもそれぞれ特色があるのだから大丈夫ということなのか、その辺りを調査研究の中で分かったことがあれば教えてください。

○説明員 いくつかの発行者は、確かに重たい、ページ数が多い、いわゆる読み物資料としての質がかなり高く、量的にもあるということはある状況でした。そういった意見が出たのは確かで、50分の中で収まらないのではないかというものもありました。

○村田悦一教育長職務代理者 もう一度確認しますが、その22項目を押さえれば、この教科書に出ているものは、各学校が年間指導を行って、もちろん35時間やりますが、内容的には35の主題を全部やらなくても、項目として22の項目があれば、35時間で大丈夫ですね。

○説明員 はい。

○高木宏幸教育長 私は、今度の道徳の指導において、評価をどうするのかということをお聞きします。先ほどの説明の中では記述による評価を行うということでした。これは子どもたちの学習の状況を把握して記述による評価を行うということで、それはその子どもの個人内評価であるべきです。ですから、評価をするときに、自己評価については、私は気を付けなくてはいけないと思います。自己評価があって、先生は何を自己評価で見るのか。子どもの書いた作文やノート、文章の中でどのように変容しているのかというのを見るのと、自己評価で内容項目 2 2 項目を 4 段階、5 段階に分けて、それが、その子どもが例えばある項目のところは 4 を付けたとか、5 を付けたとか、それで評価していいのでしょうか。

自己評価を私は否定しません。私自身の考えは、道徳というのは、ポートフォリオ的にしっかりと子どもたちの思いを積み上げていって、その中で子どもの変化をしっかりとらえて、そこを先生は評価すべきであると思います。それを一步間違えると、自己評価を本人がしているからといって、いくつかの教科書にあるように、2 2 項目のところの 4 段階や 5 段階評価を見て、子どもの評価をしていくのは違うと思います。同じ自己評価でも、道徳の授業に対してどのように自分が向かっていったのか。課題をとらえて一生懸命考えて、僕は 5 段階だったら 3 だと思う、4 だと思うという授業の内容の自己評価と、内容項目に関わって、2 2 項目に対する自己評価、これは十分配慮の上、教員はそれを受けとめていくべきと思います。私は、そこは本来の道徳の教科で、学習の状況を適切に把握して励ます個人内評価を記述式で、いかに成長したかを評価するということを考えると、同じ自己評価でもそのとらえ方を間違えると、仮に内容評価で評価させたとしても、それを全て自己評価だと受けとめて評価するのではなく、それも一つの参考とするのはいいと思いますが、それだけでもって評価するのはいかなものかと思います。

ですので、私は、「考え、議論する道徳」を展開するなら、やはり子どもの言葉の中にその子ども自身がどういう変化をしたのかというのを、授業の中で数行でも書かせていく。こういうことが評価をするに当たっては、私は大事だと思います。だから、自己評価を一つの固定的なものとして見るのではなく、根幹のところを外してはいけないと思います。

それから、私は、草加はいのちの教育を実感させる教育、これを教育委員会の指導の中の大きな課題ととらえています。これはなぜかという、いのちの大切さを実感するというのは、自分の命もそうですが、他の人の命も大切にする。それは人間として一番根本的なことであり、そうすることで他者への思いやりや自分の命も大切にしていける、そしてそれは人間

の命だけではなく、自然に対する命でも何でもそこに通ずることが分かると思います。ですから、いのちの大切さを実感する教育を進める上で、一番良い教科書を選ぶべきではないかと考えます。

質問ですが、一つは、先ほど主題の話がありましたが、タイトルの題材のところに主題が書いてあるか書いていないかについて、これはメリット・デメリットがあると思いますがいかがでしょうか。

それからもう一つ、学習ノートがある発行者が2者ありますが、この2者の学習ノートは違います。1者は教科書の内容の記述に沿ったものです。もう1者は22項目に関わっての評価です。同じ学習ノートと言っても、その違いもあると思いました。

戻りますが、主題について明記してあるものと明記していないもの、先ほど明記しないことによっていろいろ広がりがあるという説明がありましたが、明記しているものについては、子どもたちが初めからそれを頭に置いて、先生が期待する答えを言うような授業になってしまわないでしょうか。

それからもう一つは、学習ノートもそうですが、教科書の中にある発問が多いと、その発問がもう既にその授業の柱になってしまうのではないかと感じました。その辺りはいかがでしょうか。

○説明員 私は、子どもの実態や発達段階も絡んでくると思います。あるいは、教員も若手からベテランまで、いろいろな年齢層の教員もいます。ですから、例えば題材名のところに主題名が書いてあれば、当然これから読む教材はどんなことが書いてあるかと内容は推察できます。そうすると、最後の発問例を見ても、こういうことを聞いているのかという予測は立てられると思います。ただ、それが果たして良いのか悪いのか、メリット・デメリットというのは、良い悪いというよりも、その実態に応じて、それはいかようにでもなるのかと思います。

例えば、道徳の授業を何十年と行ってきたベテラン教員であれば、主題名がなくても子どもたちに上手く導入をもっていき、内容項目に迫るような授業は展開できると思います。しかし、若手の経験の少ない教員であれば、少なからずとも、主題名が書いてあり、導入の文章があれば、子どもたちにそれを提示して、今日はこういう内容でやっていくという授業展開も考えられます。子どもの実態、あるいは教員の力量によって、これはメリットになり、デメリットにもなるかと私は考えます。

また、2者が道徳の別冊ノートを用意していますけれども、1者は、全て資料の内容に沿

ったもの、もう一つは内容項目に沿ったものです。これも調査研究をする上でいろいろな意見が出ました。ノートがあることで助かる教員もいます。これはまさに、若手の教員です。経験の少ない教員であれば、このノートをワークシート代わりに使い、子どもに意見を書かせ、最後にノートを集めて、評価の一つの参考になります。自己評価をさせるわけですが、あくまでも一つの評価の目安として、それを活用できるのではないかとということです。

ただ、ベテランの教員から見ると、このノートがあることで逆に制限されてしまう、縛られてしまう、自由な授業展開ができないのではないのかという意見も出ています。ですので、これも一概にノートがあるからということではなく、それを扱う教員の力量や経験年数によってメリットにもなり、デメリットになると考えています。

○宇田川久美子委員 確認ですが、先ほど22項目35時間という話がありました。東京書籍の場合ですと、本文が30個あり、付録として5個ありますが、これは時間があつたらということでしょうか。1時間に1個ずつスムーズに終われば、この付録の部分もやっていくという考え方でよろしいでしょうか。

○説明員 子どもたちや学校の実態に応じて、残りの5時間は選択できる余地を残しているということだと思います。

東京書籍の1年生の付録に「橋の上のおおかみ」がありますが、実は小学校の教材にある題材です。中一ギャップを意識して、小学校の題材もここで取り上げて考えてみようということで、付録の教材として挙げているのもございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、小学校の家庭、保健、そして中学校の道徳の教科用図書に係る採択に入ります。

これから投票用紙を配りいたしますので、事務局で確認をお願いします。

お手元に投票用紙はございますでしょうか。記入をお願いしたいと思います。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空かどうか確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 投票漏れはございますか。

開票の状況につきまして、井出委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 集計結果を発表いたします。

集計の結果、家庭につきましては、開隆堂出版株式会社 6 票でございますので、開隆堂出版株式会社といたします。

保健につきましては、株式会社学研教育みらい 6 票でございますので、株式会社学研教育みらいといたします。

中学校道徳につきましては、東京書籍株式会社 4 票、日本文教出版株式会社 1 票、株式会社学研教育みらい 1 票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

以上で第 4 4 号議案につきましては、決定をいたしました。

○高木宏幸教育長 続きまして、その他の報告がございましたらお願いいたします。

○教育総務部長 特に用意ございません。

○高木宏幸教育長 その他の報告がないようでしたら、次回の教育委員会の日程について事務局からお願いいたします。

○説明員 次回の教育委員会の日程でございますが、第 8 回の定例会を 8 月 2 1 日、火曜日、時間は午前 9 時から、場所は教育委員会会議室でお願いしたいと存じます。

また、その前日 2 0 日、月曜日、時間は午前 1 0 時から、会場は本庁舎西棟 5 階におきまして、本年度第 1 回の総合教育会議が開かれますので、ご出席をお願いいたします。

以上でございます。

閉会の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。

午後 3 時 4 3 分 閉会